

こです HOKKAIDO 2023

(令和5年度版)

Collected papers
Domestic Science
Studies

北海道高等学校長協会家庭部会

こです HOKKAIDO 2023 【令和5年度版】

目 次

○	巻頭挨拶								
		北海道高等学校長協会家庭部会長	北海道江別高等学校	校長	古	市	俊	章	1
○	家庭科教育の実践について								
	～生徒の意欲を高める家庭科教育～								
		北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課		主査	山	本	昌	枝	2
I	令和5年度北海道高等学校長協会家庭部会活動報告								
◆	北海道高等学校長協会家庭部会の組織と今年度の事業内容について								
		北海道高等学校長協会家庭部会長	北海道江別高等学校	校長	古	市	俊	章	3
◆	公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会全国高等学校長協会家庭部会同北海道地区校長会報告								
		北海道高等学校長協会家庭部会長	北海道江別高等学校	校長	古	市	俊	章	5
◆	令和5年度 全国福祉高等学校長会理事会並びに総会報告								
	全国福祉高等学校長会北海道地区理事								
		北海道剣淵高等学校		校長	齋	藤	克	幸	7
◆	北海道高等学校家庭科教育研究協議会企画委員会報告								
1	第72回北海道高等学校家庭科教育研究協議会を終えて								
		北海道高等学校家庭科教育研究協議会会長							
		北海道森高等学校		校長	佐	紺	撰	子	8
2	オリエンテーション								
		北海道高等学校家庭科教育研究協議会会長							
		北海道森高等学校		校長	佐	紺	撰	子	10
3	研究発表								
□	提言1	変化への対応と普遍性の追求							
		～「子どもの発達を促す木のおもちゃ」の研究を軸に～							
		北海道森高等学校		教諭	金	子	真	実	12
□	提言2	分散で実施した被服実習の授業紹介							
		～コロナ禍での被服実習における評価の工夫と改善～							
		北海道小樽水産高等学校		教諭	遠	藤	由	希	13
4	分科会報告								
□	第1分科会		北海道寿都高等学校	教諭	大	澤	晴	香	14
□	第2分科会		北海道知内高等学校	教諭	加	藤	寿	美	15
5	第72回北海道高等学校家庭科教育研究協議会 講評								
		北海道教育庁留萌教育局教育支援課高等学校教育指導班		主査	高	井	央	様	16
6	グループ別体験研修報告								
□	A 食生活セミナー		北海道札幌南高等学校	教諭	高	橋	あ	き	17

□ B 被服セミナー	北海道名寄産業高等学校	教諭	坂上真子	18
□ C ライフデザインセミナー	北海道石狩翔陽高等学校	教諭	東昌江	19
□ D 消費生活セミナー	北海道釧路商業高等学校	教諭	上杉美玖	20

◆ 北海道高等学校長協会家庭部会 調査研究委員会報告

「北海道の家庭科教員の抱える現状と課題」

北海道高等学校長協会家庭部会調査研究委員長

北海道苫前商業高等学校	校長	佐藤恵一	21
-------------	----	------	----

II 令和5年度北海道高等学校家庭クラブ連盟活動報告

1 北海道家庭クラブ連盟の活動について

北海道高等学校家庭クラブ連盟成人会長

北海道当別高等学校	校長	保格秀規	23
-----------	----	------	----

2 第64回全国高等学校家庭クラブ指導者養成講座に参加して

北海道江別高等学校	教諭	秋田貴子	24
-----------	----	------	----

3 第71回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会北海道代表出場校として

□ 学校家庭クラブ活動の部

北海道札幌北高等学校	教諭	松本奈巳	25
------------	----	------	----

4 第72回北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会・総会を終えて

令和5年度北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会・総会担当校

北海道厚真高等学校	教諭	黒田さとみ	26
-----------	----	-------	----

III 令和5年度北海道家庭科技術検定委員会活動報告

1 家庭科技術検定の実施について

北海道高等学校家庭科技術検定委員会委員長

北海道三笠高等学校	校長	藤田博史	27
-----------	----	------	----

2 家庭科技術検定全国専門委員会に参加して

□ 全国専門委員会（被服）

函館大妻高等学校	教諭	笹森美絵	28
----------	----	------	----

□ 全国専門委員会（食物調理）

北海道三笠高等学校	教諭	斎田雄司	29
-----------	----	------	----

□ 全国専門委員会（保育）

北海道当別高等学校	教諭	足達しずか	30
-----------	----	-------	----

3 令和5年度北海道高等学校家庭科技術検定評価研究協議会・検定委員会養成講座実施報告

北海道三笠高等学校	教諭	斎田雄司	31
-----------	----	------	----

IV 家庭科教育に関する報告

1 第11回北海道高等学校長協会家庭部会意見・体験発表大会を開催して

北海道高等学校長協会家庭部会意見・体験発表大会事務局

北海道江別高等学校	教諭	鈴木朋美	33
-----------	----	------	----

2 第11回北海道高等学校長協会家庭部会意見・体験発表大会に参加して

□ 発表校《総合学科》

発表者 北海道石狩翔陽高等学校 3年 植田美由

指導者 北海道石狩翔陽高等学校 教諭 居内映莉子 34

□ 発表校《家庭部会》	発表者 指導者	北海道三笠高等学校 北海道三笠高等学校	3年 難 教諭 明	波 沙 石 絵	綾 美	35
□ 発表校《福祉部会》	発表者 指導者	北海道置戸高等学校 北海道置戸高等学校	2年 河 教諭 三	合 瑛 浦 玲	音 奈	36
3 第61回北海道高等学校教育研究大会	教科別集会家庭部会を終えて 北海道札幌東陵高等学校		教諭 影	山 文	那	37
4 初任段階教員研修1年次研修（高等学校）に参加して	北海道遠軽高等学校		教諭 宮	森 万	実	38
5 中堅教諭資質向上研修（高等学校）に参加して	北海道美唄尚栄高等学校		教諭 風	上 沙	織	39

V 福祉教育等に関する報告

1 第21回「福祉に関する教科・科目設置校研究協議会」を終えて 第21回「福祉に関する教科・科目設置校研究協議会」当番校	北海道置戸高等学校		校長 長	尾 勝	恵	41
2 第8回北海道地区高校生介護技術コンテストを開催して 第8回北海道地区高校生介護技術コンテスト当番校	北海道留寿都高等学校		教諭 大	内 亜	瑞 沙	42
3 第10回全国高校生介護技術コンテスト大会に参加して 第8回北海道地区高校生介護技術コンテスト最優秀受賞校	北海道剣淵高等学校		教諭 高	倉 彩		44

VI 各地区（ブロック）家庭科研究会の一年間の活動状況

1 空知管内 北海道砂川高等学校	2 石狩管内 北海道北広島高等学校	45
3 後志管内 北海道ニセコ高等学校	4 胆振管内 北海道伊達開来高等学校	46
5 日高管内 北海道平取高等学校	6 渡島・檜山地区 函館大妻高等学校	47
7 上川・名寄地区 北海道富良野緑峰高等学校	8 留萌管内 北海道留萌高等学校	48
9 宗谷管内 北海道稚内高等学校	10 オホーツク管内 北海道北見北斗高等学校	49
11 十勝管内 北海道幕別清陵高等学校	12 釧根地区 武修館高等学校	50

VII 特別寄稿

◆ 大変お世話になりました。	北海道置戸高等学校	校長 長	尾 勝	恵	51
○ 編集後記	北海道三笠高等学校	校長 藤	田 博	史	52

巻 頭 挨拶

北海道高等学校長協会家庭部会長

北海道江別高等学校 校長 古市俊章

日頃より、北海道高等学校長協会家庭部会の運営に多大なるご支援を賜り、心よりお礼を申し上げます。今年度、全道183校の加盟をいただきました。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、感染防止対策を施しながら今年度の事業については、対面やハイブリッド方式で行うことができました。徐々にですが、生徒の生き生きとした活動、発表を通じてその姿に喜びを感じ、本来の姿に戻ったことを実感しております。北海道教育委員会、北海道高等学校長協会、加盟いただいた各高等学校等の関係各位のご理解とご協力をいただきましたこと、改めて深く感謝申し上げます。全国の状況も同様に各種大会、会議等も通常通りの開催になりました。

令和4年度より、1人1台端末の導入が始まり、令和6年度には、1人1台端末の整備が完了する予定です。これは令和の時代におけるスタンダードであり、端末は筆記用具、ノートに並ぶマストアイテムと言われています。端末の利用により場所、時間に左右されず学習できる環境になり、遠隔授業の実施など活用幅は無限大に広がりました。しかし、ハード面での整備が進む中、使うことが目的化しているという課題もでてきます。使うことでどのような力を生徒に付けさせるかという基本を忘れずに指導することが大切になっています。例えば、グループ協議を行う場合、従前は意見集約に付箋紙を使い模造紙に貼ってグルーピングをしていましたが、各端末から入力により、他の人の考えも参考にしながら意見を入力することができます。また、他のグループの場所に移動しなくても自分の端末から閲覧することができます。移動時

間がなくなる分、生まれた時間を考察や協議の時間に使えることで学習を深めることが可能となります。端末の活用は、授業での資料提示や生徒の発表やプレゼンテーションなどの、従来から行われている活動の他、実験、実習の提示や生徒の協働的な学習、さらには学習評価など活用の幅が広がっています。家庭科教育においても、各校で活用が行われているところですが、家庭科教諭1名の学校が多いことから、校内で相談する相手がいないなど、活用方法を試行錯誤している方も多いと思います。部会といたしましては、研究協議会における情報共有を今後も継続していく考えでおります。また、各校で実践されている取組がありましたらぜひ情報をいただき、各校で共有したいと考えておりますのでご理解とご協力をお願いします。

社会が大きく変化するこの時代、家庭科教育は、学習指導要領に基づき新たな取り組みを模索しながら、生徒たちの生涯にわたって、持続可能な生き抜く力を育成する重要な教科となっていくと確信しています。部会といたしましても、新しい時代に求められる家庭科教育を推進するための様々な活動に取り組んでまいります。

今年度の各事業におきまして、生徒の活躍の場を提供するため、取り組みをしていただきました当番校および参加者・関係するすべての方に重ねて感謝申し上げますとともに、次年度も家庭部会に対する皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます、巻頭のご挨拶といたします。

【家庭部会ホームページ】

<http://www.do-kateibukai.hokkaido-c.ed.jp/>

家庭科教育の実践について

～生徒の意欲を高める家庭科教育～

北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課
主査 山本 昌枝

社会や産業の構造が変化し、質的な豊かさが成長を支える成熟社会に移行していく近年、私たちに求められるのは、定められた手続を効率的にこなすだけでなく、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、自分で進んで学び続けて自分の能力を引き出し、自分なりに試行錯誤することや、多様な周りの人たちと協力しながら、新たな価値を生み出していくことだと言われています。

高等学校では、探究学習や教科横断的学習が行われていますが、家庭科は、「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」において、関連する知識や技術を身に付けることや、学習から自分の生活や社会を更に良くするための課題を発見し、その方法を生徒が自ら考え、解決しようとするのが学習指導要領に記載されています。また、家庭科の学習は、日々の生活をとりまく食物、被服あるいは住居など家庭生活に関する産業の各分野についても理解を深める内容であることから、他教科の学習を日々の生活と結び付けて考える際に効果的なものとさせることが可能となります。

日々の学習が生徒にとって、楽しみながら喜びながら学べることは理想です。しかし、生徒の興味・関心の方向性や意欲がそれぞれ異なり、特に不満のない生活を送る中で、生活上の疑問や改善させたい事柄を引き出すことに苦慮している先生も多いのではないのでしょうか。

教員が生徒に対してできることのうちの一つに学ぶ意欲を高める環境づくりがあります。教員が様々な環境を様々な側面から提供するなかで、生徒にとって「学ぶ意欲を高め合える集団」となった時、想像の枠を超えた学びが生まれま

す。このことは、授業での相互評価や、探究学習における考察だけでなく、課題設定にも活用することができます。生徒が相互に「発表内容のこの点がよかった。このようにすればもっとよくなると思う。」と互いの発表や発言内容に対して意見を交わすことで、自らの良い点や改善点にも気付くことができるからです。

指導主事として勤務させていただいて4年が経過します。その間、生徒が学ぶ意欲を高め合うような、また生徒が互いの発表に対してもっとよくなるにはどうしたらよいか意見を交わすような素晴らしい授業を何度も拝見してきました。私は現在、主に生徒指導に関わる業務を行っているところであります。この部署で勤務して感じることは、家庭科の先生は生徒理解に長けた先生が多いということです。教員がしっかり生徒理解をしていると、授業はその先生にしか表現できない素晴らしいものになることを改めて感じさせられます。生徒が授業に興味を持ち、前のめりになって授業に参加している姿を見た後、私は先生に授業に参加していた生徒の話を尋ねることがありますが、ひとりひとりの生徒をよく観察していると同時に、その生徒にとってどんな迫り方をすると一番理解が深まるのかを深く考えられていて、この学校の生徒とこの先生だからこそ見られる授業だということを感じさせられます。私が拝見させていただいた授業は、そんな授業ばかりであったことを振り返ります。

先生方におかれましては、これまでも本道の家庭科教育の発展に御尽力いただいていることに深く感謝申し上げますとともに、生徒の「学ぶ意欲を高める」家庭科教育の実践をお願いします。

I 令和5年度北海道高等学校長協会
家庭部会活動報告

北海道高等学校長協会家庭部会の組織と今年度の事業内容について

北海道高等学校長協会家庭部会長

北海道江別高等学校 校長 古市俊章

今年度、北海道高等学校長協会家庭部会には、183校の加盟をいただきました。加盟並びに各種のご支援ご協力をいただいたことに厚く感謝申し上げます。

今年度の本家庭部会の組織、事業内容等は次のとおりとなっています。

■令和5年度 部会の役員構成等

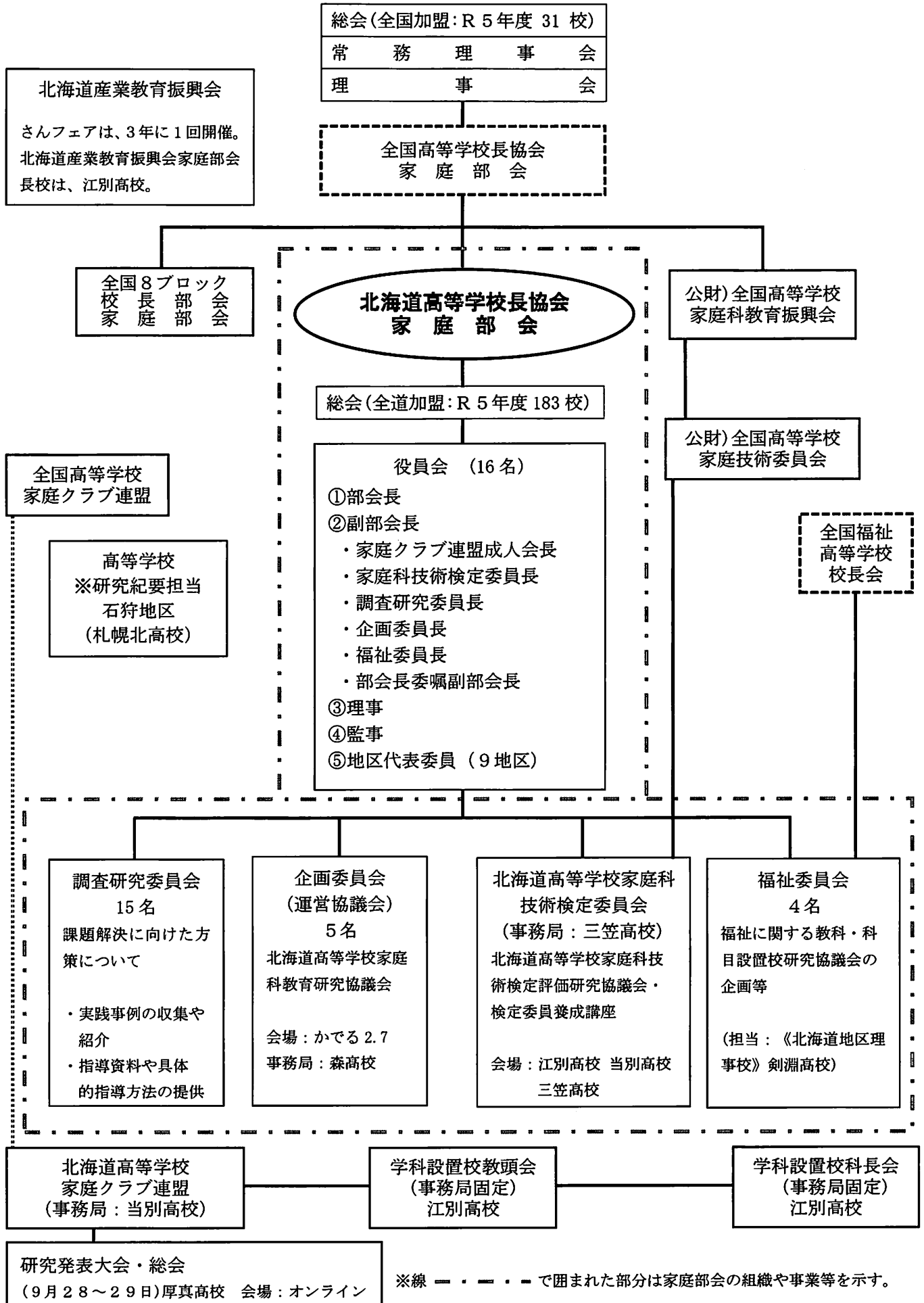
役職	校長名・学校名	兼務する役職等
部会長	古市俊章 江別	全国部会道代表理事 全国部会常務理事 全国家庭振興会理事
副部会長	佐紺摂子 森	全国部会常務理事 全国家庭振興会評議員 企画委員長 調査研究委員 高教研部会長
	齋藤克幸 剣淵	全国福祉部会道理事 福祉委員会委員長 調査研究委員 道地区委員
	保格秀規 当別	家庭クラブ代表理事 調査研究委員
	藤田博史 三笠	全国技術検定道理事 企画委員、調査研究委員 家庭技術検定委員長 道地区委員
	佐藤恵一 苫前商業	調査研究委員長
監事	渡辺晃史 千歳北陽	調査研究委員 道地区委員
	壽淺章洋 野幌	調査研究委員 企画委員
理事	長尾勝恵 置戸	福祉委員会委員 調査研究委員 道地区委員
	八丁正樹 名寄産業	調査研究委員、企画委員 道地区委員
	池田延己 函館大妻	全国福祉部会特任理事 福祉委員会委員 調査研究委員 道地区委員
	川嶋修一 留寿都	福祉委員会委員 調査研究委員
他の道地区委員	谷川敬一 倶知安	後志、調査研究委員
	坪井克彦 登別青嶺	日胆、調査研究委員
	楡木伸司 帯広緑陽	十勝、調査研究委員
	三浦治彦 釧路明輝	釧根、調査研究委員

■令和5年度 部会の主な事業

月日	事業 (会場)
4/17	家庭科技術検定常任理事会(三笠高)
4/20	第1回家庭部会役員研究協議会(ライフォート)
4/27	全国家庭科教育振興会理事会(東京)
5/10	家庭部会総会(ライフォート)
5/11	道家庭クラブ連盟第1回研究協議会(カネモホール)
5/15	全国福祉校長会第1回理事会(東京)
"	全国家庭部会、常務理事会、理事会(東京)
5/16	全国家庭部会総会、研究協議会(東京)
5/18	技術検定代表理事会(東京)
6/30	家庭科技術検定検定委員養成講座(被服)(江別高)
7/27・28	全国家庭クラブ連盟研究発表大会(宮崎)
8/1	全国家庭部会北海道地区校長会(札幌)
8/1・2	道家庭科教育研究協議会(札幌)
8/3	家庭科技術検定検定委員養成講座(保育)(当別高)
8/3・4	全国家庭科実践研究大会(長崎)
8/25	第7回北海道高校生介護技術コンテスト(医療大学)
9/4	第11回家庭部会意見・体験発表大会(江別高)
9/22	福祉に関する科目設置校研究協議会(置戸高)
9/28・29	全道家庭クラブ研究大会総会(厚真高校 zoom)
9/30	北海道高等学校産業教育フェア
10/12・13	全国家庭部会研究協議会(岡山)
10/28・29	第33回全国産業教育フェア～福井大会(福井)
1/11	高教研家庭部会(札幌南高)
2/2	全国家庭部会、常務理事会、理事会(東京)
2/22	第2回家庭部会役員研究協議会(ライフォート)
"	道家庭クラブ連盟第2回研究協議会(ライフォート)

※令和5年11月22日現在

【令和5年度 北海道高等学校長協会家庭部会 組織図】



公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会

全国高等学校長協会家庭部会 同北海道地区校長会 報告

北海道高等学校長協会家庭部会長

北海道江別高等学校 校長 古市俊章

I 公益財団法人全国高等学校家庭科教育振興会理事会

令和5年4月27日(木) 13:20~15:00

Web開催

出席者 財団理事 古市俊章(江別)

議事

1 令和4年度事業報告

(1) 公益事業及び収益事業について

主な事業 家庭科技術検定の実施

令和4年度 家庭科技術検定受検状況

① 被服製作 35,927人

② 食物調理 66,063人

計 101,990人

前年比 -5,344人

③ 保育 102,277人

前年比 -2,222人

(2) 令和4年度収支決算書

経常収益 179,579,021円

主な事業 検定 150,697,500円

出版 22,614,520円

経常費用 199,366,145円

2 令和5年度事業計画

(1) 公益事業及び収益事業

主な事業 家庭科技術検定の実施

(2) 財団正味財産 342,408,208円

(3) その他の事業

(4) 家庭科振興会役員について

理事長

木次慎一(千葉県立桜東高等学校)

北海道代表理事

古市俊章(北海道江別高等学校)

評議員

佐紺摂子(北海道森高等学校)

II 全国高等学校長協会家庭部会

<常任理事会>

令和5年5月15日(月) 13:10~13:40

ホテルメトロポリタンエドモンド

出席者 全国常務理事 古市俊章(江別)

協議

1 全国理事会・研究協議会の運営

2 総会・研究協議会の運営

3 調査研究委員会委員

4 家庭に関する研究大会等の開催予定

連絡事項

1 第130回秋季研究協議会(岡山大会)

2 第130回秋季研究協議会 研究協議提案者

3 第67回家庭科実践研究会(長崎大会)

4 食物科・調理科高等学校長協会第33回総会・研究協議会(徳島大会)

5 第33回全国産業教育フェア(福井大会)

<理事会>

令和5年5月15日(月) 14:40~17:00

ホテルメトロポリタンエドモンド

出席者 全国常務理事 古市俊章(江別)

報告事項

1 全国高等学校長協会家庭部会第1回常務理事会報告

2 家庭科教育振興会第13回評議員会並びに第38回理事会報告

協議事項

1 令和4年度家庭部会事業報告

2 令和4年度会計決算報告・監査報告

収入 20,659,591円

内 会費 9,515,000円
(5,000×1,903校)

3 令和5年度校長功労者表彰(案)

4 令和5年度家庭部会役員選出
理事長

木次慎一(千葉県立桜東高等学校)

北海道代表理事

古市俊章(北海道江別高等学校)

評議員

佐紺摂子(北海道森高等学校)

5 令和5年度家庭部会事業計画

6 令和5年度家庭部会会計予算書

収入 17,264,685円

内 会費 9,500,000円

(5,000×1,900校)

主な支出 事業費 6,250,000円

地区別校長会 900,000円

Ⅲ 総会・研究協議会

令和5年5月16日(火) 10:00~16:20

ホテルメトロポリタンエドモンド

出席者 全国常務理事 古市俊章(江別)

1 開会式

(1) 理事長挨拶

(2) 来賓祝辞

文部科学省初等中等教育局産業教育

振興室 室長 岩間光彦 氏

産業教育振興中央会

専務理事 岩井 宏 氏

(3) 校長功労者表彰 挨拶 稲葉昌弘

2 総会・研究協議会

3 講演

「和食の魅力～ユネスコ無形文化遺産登録

十周年を迎えて～」

東京栄養食糧専門学校校長 渡邊智子氏

4 研究協議

「家庭に関する学科の魅力ある取組の可視化」

長崎県立北須磨高等学校 若松明子

「新高等学校学習指導要領を踏まえた家庭科教育の充実に向けて」

茨城県立伊奈高等学校 齊藤辰彦

「共通教科「家庭」における衣生活に関する指導の充実に向けて」

岐阜県立岐阜総合学園高等学校 片岡潤子

「令和5年度家庭学科等卒業者の進路状況調査」

埼玉県立鴻巣女子高等学校 小川 剛

5 講話

「新学習指導要領の着実な実施を目指して」

文部科学省初等中等局教科調査官

田邊暁子 氏

Ⅳ 全国校長会家庭部会北海道地区校長会

令和5年8月1日(火) 13:30~15:30

家庭部会校長参加者数 17名

進行 北海道三笠高等学校長 藤田博史

1 次第

(1) 部会長挨拶

北海道高等学校長協会家庭部会長

北海道江別高等学校長 古市俊章

(2) 来賓挨拶

全国高等学校長協会家庭部会副理事長

東京都立東村山高等学校長 富川麗子 氏

(3) 説明

「全国の高等学校家庭科教育の現状と課題について」

全国高等学校長協会家庭部会副理事長

東京都立東村山高等学校長 富川麗子 氏

(4) 報告

令和5年度全国高等学校長協会家庭部会総会・研究協議会について

北海道高等学校長協会家庭部会長

北海道江別高等学校長 古市俊章

(5) 協議

①全国高等学校長協会研究発表の輪番について

②各校の家庭科教育の現状と課題について

2 諸連絡

令和5年度 全国福祉高等学校長会理事会並びに総会報告

全国福祉高等学校長会北海道地区理事

北海道剣淵高等学校 校長 齋藤 克幸

1 第1回理事会、理事・学科主任代表者合同会議 (5月15日(月) 赤羽北桜高校)

(1) 規約改正

全国福祉高等学校長会規約が改正され、令和5年4月1日から施行された。規約の主な変更内容は、①理事長の輪番制、②副理事長の人数増(ブロック配置)、③業務分散およびブロックごとの部会割当等である。

役員の任期は2年で、理事長は5ブロックによる輪番制で選出される。次期理事長(令和7～8年度)は、関東ブロックからの選出となり、北海道・東北ブロックは令和16～17年度の予定である。今後は、業務が分散されるなかで、全体の状態を把握するために各部会担当校との情報共有が重要となり、業務内容を整理し、可視化を図っていく必要がある。

(2) 法人の設立(仮称：全国高等学校福祉教育振興会)

各種事業の一部移管、及び新たな事業を実施することで校長会のより円滑な会の運営と高校福祉の幅を広げることを目指し設立準備をする。

(3) 教員研修

産業・情報技術等指導者養成事業(H-1研修)「教員介護知識技能講習」を、令和5年8月21～23日に聖隷クリストファー大学(静岡県)で実施する。介護福祉等に係る講習会(介護福祉士・看護師等の資格代替講習)は、令和5年度に予定していたが、令和6年8月に日本福祉大学(愛知県)で実施する。

2 第2回理事・学科主任代表者合同会議

(8月3日(木) 東北福祉大学)

(1) 仮称：全国高等学校福祉教育振興会の設立

法人設立委員会準備を進めている。一般社団法人とし、事業として当面は「社会福祉・介護福祉検

定」の運営を中心とし、問題作成は従来通りとした。法人の所在地、理事長及び理事の選出、予算等についてさらに検討をする。

(2) 報告事項

介護福祉等に係る講習会は、日本福祉大学東海キャンパス(愛知県)で令和6年8月19～30日に行う。

全国高校生介護技術コンテストは、令和5～6年度は2段階方式で行うが、令和8年度は1段階で実施予定。

次期総会・研究協議会は、令和6年8月1～2日に熊本市で開催する。

3 第27回総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会

(8月3日(木)・4日(金) 東北福祉大学)

(1) 基調講演

厚生労働省社会・援護局福祉基盤福祉人材確保対策室長 今泉 愛氏(「介護人材確保と介護福祉士への期待」)が講演。

(2) 生徒体験発表

北海道剣淵高等学校 佐藤菜々美(「実習で築く福祉の気づき」)が発表し、奨励賞を受賞。

(3) 校長会総会・各部会報告

議事は理事会のとおり。

(4) 研究協議会A・B

北海道剣淵高等学校 柏倉早智子教諭(「持続可能な未来の担い手づくり～何も無いのが素晴らしい!」)が授業研究で事例発表。

4 第3回理事・学科主任代表者合同会議

(1月15日(月) 赤羽北桜高校)

令和5年度事業および令和6年度事業計画、部会報告、検討事項1・2、講演。

第72回北海道高等学校家庭科教育研究協議会を終えて

北海道高等学校家庭科教育研究協議会会長
北海道森高等学校 校長 佐 紺 撰 子

8月1日(火)・2日(水)の2日間、北海道立道民活動センター「かでの2.7」を主会場として、令和5年度第72回北海道高等学校家庭科教育研究協議会を4年ぶりに対面で開催することができました。

ご来賓として、北海道教育庁学校教育局高校教育課長 相馬 利幸 様、全国高等学校長協会家庭部会副理事長 富川 麗子 様にはご臨席ならびにご挨拶をいただくとともに、北海道教育庁留萌教育局教育支援課高等学校教育指導班主査 高井 央 様には全体会Ⅱにおいて講評をいただきました。

北海道高等学校長協会家庭部会に加盟の校長先生方をはじめ、多数の先生方のご参加により、お陰様で盛会のうちに所期の目的を達成することができましたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。

本研究協議会は、北海道高等学校長協会家庭部会企画委員の校長5名、家庭科教頭3名、全道各地より選出された運営研究員22名、事務局(森高校)4名の計34名で組織され、企画・準備・運営業務を担いました。改めまして、ご尽力いただいた皆様と、教頭先生・運営研究員の先生の派遣にご配慮いただきました関係高校の校長先生に深く感謝申し上げます。

1 全体会Ⅰ

1日目午前中は、開会式、オリエンテーションに続いて全体会Ⅰとし、家庭クラブ及び家庭科技術検定についての説明ならびに研究発表として2つの提言がなされました。

(1) 家庭クラブの指導について

札幌北高校 松本 奈巳先生より、スライドや資料を使いながら、まず家庭クラブとは何か、高等学校家庭クラブ連盟や家庭クラブの指導等

について説明いただきました。その中で、高等学校家庭クラブ連盟は、各学校で家庭科を学習している生徒であれば誰でも加入できること、加盟方法、大会発表内容、授業・探究・外部機関との接続など家庭クラブの指導の具体等について、大変参考になるお話がありました。各校でも家庭クラブ連盟への加盟をご検討いただけますと幸いです。また、札幌北高校さんは、今年度の全国高等学校家庭クラブ研究発表大会宮崎大会にて、学校家庭クラブ活動の部で北海道代表として発表され、見事「文部科学大臣賞」を受賞しております。

(2) 家庭科技術検定について

江別高校 狩野千賀子先生より、スライドや資料を使いながら、被服製作の内容や実際の指導方法、申込方法等について丁寧な説明がなされました。特に、令和6年度から被服製作技術検定4級が手縫いだけでできるようになる等の貴重な情報提供が行われました。食物調理、保育については、事務局 森高校より説明しました。是非、生徒の知識・技術の向上を目指すため、各校で技術検定を導入していただきますよう、また、先生方におかれましても検定員養成講座を受講され、ご自身の益々の技術向上につなげていただきますようお願い申し上げます。

(3) 研究発表について

提言は、渡島・檜山地区から、森高校 金子真実教諭より「変化への対応と普遍性の追求～『子どもの発達を促す木のおもちゃ』の研究を軸に」と題し地域と連携した授業実践と評価について、後志地区から、小樽水産高校 遠藤由希子先生より「分散で実施した被服実習の授業紹介～コロナ禍での被服実習における評価の工夫と改善～」と題しコロナ禍での被服実習とその評価について発表されました。

2 校長部会・分科会

1日目午後からは、校長先生方は、全国高等学校校長協会家庭部会北海道地区校長会に参加いただき、富川副理事長から家庭科教育の全国の現状と課題について情報提供いただきました。その後、北海道高等学校長協会家庭部会長（江別高校長）古市 俊章校長から、「全国高等学校長協会家庭部会総会・研究協議会」等についてご報告いただき、研究協議を行いました。

ご参加の先生方は、2つの分科会に分かれ、午前の研究発表を受け、授業実践例や評価の工夫・改善等について活発に協議を行い、大変有意義な分科会となりました。

3 全体会Ⅱ

分科会終了後は、全体会Ⅱとして、各分科会の報告を行いました。最後に高井主査より、各提言内容についての指導と評価をいただくとともに、消費者教育について情報提供をいただき、実り多い研究協議会となりました。

4 グループ別体験研修講座

2日目は、4年ぶりのグループ別体験研修講座を行いました。今年度は、A 食生活、B 被服、C ライフデザイン、D 消費生活を実施しました。A研修では、発酵食品マイスターの勝山美幸様を講師に「おからで味噌づくり」の研修、B研修では、日本風呂敷文化協会代表理事の横山芳江様を講師に風呂敷の活用についての研修、C研修では、ワーク・ライフバランスコンサルタント北海道の福澤由佳様を講師に自分自身の生き方についての講義、D研修では、北海道立消費生活センターの齋藤清美様を講師に最近の消費者問題について研鑽を深める機会となりました。

詳細は、本冊子の「グループ別体験研修報告」をご覧ください。

本研究協議会終了後の参加者アンケートからは、「対面実施が楽しく、充実していた」、「学校に戻り、また頑張る力をもらった」等のお声を多くいただきました。本研究協議会が、本道の家庭・福祉の先生方にとって、さらに実り多き研修・学びの場となるよう努めてまいります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

【本研究協議会 組織】

1 役員

部会長	古市 俊章 (江 別)
会長	佐 紺 摂子 (森)
副会長	保 格 秀規 (当 別)
	八 丁 正樹 (名寄産業)
監 事	藤 田 博史 (三 笠)
	壽 浅 章洋 (野 幌)

2 運営研究員

教 頭	後 藤 あゆみ (平 取)
	石 川 博史 (長万部)
	上 村 晴美 (七 飯)
石狩地区	稲 見 郁子 (札幌東)
	高 橋 あき (札幌南)
	上澤田 朋子 (札幌白石)
	高 橋 理緒 (札幌工業)
	東 昌 江 (石狩翔陽)
	宮 崎 円 (北海学園札幌)
	秋 田 貴子 (江 別)
坂 口 尚子 (当 別)	
道南地区	石 川 佳寿美 (函館水産)
	加 藤 寿美代 (知 内)
後志地区	秋 山 志保子 (小樽桜陽)
	大 澤 晴香 (寿 都)
空知地区	佐 藤 奈央子 (岩見沢西)
	山 田 真代 (芦 別)
上川地区	岸 本 美子 (旭川工業)
	坂 上 真子 (名寄産業)
留萌地区	山 下 政俊 (天 塩)
宗谷地区	武 石 彩 (稚 内)
オホーツク地区	加 藤 安香音 (湧 別)
釧根地区	上 杉 美 玖 (釧路商業)
十勝地区	品 田 ひろみ (帯広緑陽)
日胆地区	大 森 裕 介 (静 内)

3 事務局校（北海道森高等学校）

事務局長 (教 頭)	野 本 雅 明
事務局員 (事務長)	新 田 淳
事務局員 (教 諭)	畠 山 悟 子
事務局員 (教 諭)	金 子 真 実

オリエンテーション

北海道高等学校家庭科教育研究協議会会長
北海道森高等学校 校長 佐 紺 撰 子

1 はじめに

本研究協議会の開催に当たり、ご多用の中、90名を超える皆様に全道各地よりお集まりいただき、心よりお礼申し上げます。

対面による開催は、令和元年度以来、実に4年ぶりになります。皆様とこうしてお会いすることができ、ともに学べる喜びを噛みしめているところでございます。

私は、本研究協議会の企画を担当しておりますことから、会のはじめに際しまして「オリエンテーション」と題して、本研究協議会のあゆみ等について、お話をさせていただきます。



2 本研究協議会のあゆみ

本研究協議会は、昭和27年(1952年)に岩見沢西高等学校で第1回目を開催し、本大会で72回目を迎えます。

当初、当番校制で実施しておりましたが、平成24年度より全道からお集まりいただいた運営研究員による運営となっております。

運営研究員一同、力を合わせて運営してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3 本研究協議会の組織

北海道高等学校長協会家庭部会の中に複数の委員会があり、その中の1つである企画委員会では本研究協議会を企画しています。本研究協議会の令和5年度事務局は森高校です。

「令和5年度北海道高等学校長協会家庭部会組織図」は、江別高校さんのホームページから「北海道高等学校長協会家庭部会」のページに進み、見ることができます。家庭科に関わるその他の情報も見ることができますので是非ご覧ください。

4 令和4年度第71回北海道高等学校家庭科教育研究協議会報告

昨年度は8月2日に、感染症対応のためZoomにより、3年ぶりに開催いたしました。

事務局校である月形高校さん、家庭科の教頭先生、石狩管内の運営研究員の先生が江別高校に集まって本部を設営し、江別高校さんのご協力のもと、滞りなく配信できました。

校長先生、家庭科の先生を合わせて80名近い皆さんにお集まりいただき、感謝申し上げます。参加された皆様から寄せられたアンケートからは、概ね満足していただけたのではないかと考えます。

5 本研究協議会の目的・研究主題

本研究協議会の目的は、「家庭科教育に関する諸問題を研究し、会員の資質向上と北海道高等学校家庭科教育の振興を図る」ことです。

さて、来年度完全実施となる学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、両者が連携・協働して子どもたちに必要な資質・能力を育むことを目指す「社会に開かれた教育課程」の実現が掲げられております。

このことから、令和元年度に「生き抜く力をはぐくむ家庭科教育の充実を目指して」から「よ

りよい生活を創造する力をはぐくむ家庭科教育の充実を目指して」へと研究主題を変更しました。

ご承知のとおり、家庭科は、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育む教科です。

子どもたちが、家庭科を学ぶことによって身に付けた力を使って、社会・世界と関わり、よりよい人生、より幸福な人生を創造することにつなげていくことが、私たち家庭科教師の大きな役目ではないかと思っております。

毎日の生活のちょっとした気づき、工夫・改善は、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動の入り口となります。

6 本研究協議会の今年度内容

本日の全体会 I では、札幌北高校で家庭クラブのご指導に当たられている松本先生より、その豊富な実践についてお話いただきます。

また、子どもたちに正確な知識や技能を身に付けさせたり、先生方ご自身の振り返りのためにもぜひ「家庭科技術検定」を利用していただきたいと思ひ、家庭科技術検定被服担当校である江別高校 狩野先生より説明をいただきます。「食物調理」「保育」については、事務局より説明します。

その後の研究発表では、森高校 金子教諭から、いかめし・桜の他に林業のマチでもある森町（もりまち）と連携した木のおもちゃを軸とした授業実践について、小樽水産高校 遠藤先生から、コロナ禍での被服実習における評価の工夫と改善についての提言がございます。

午後からの分科会では、お二人の先生も参加されますので、ぜひ協議を深めていただきたいと思います。

また、毎年好評のグループ別体験研修講座ですが、昨年度の本研究協議会のアンケート結果

を参考に、今年度は4年ぶりに、食生活、被服、ライフデザイン、消費生活の4分野で実施いたします。先生方の明日からの授業実践につなげていただけることを願っております。どうぞご期待ください。

7 おわりに

さて、今、私たち「教師の学び」が問われています。「令和の日本型学校教育」については、令和3年1月の中央教育審議会答申により、「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」と定義されています。この「令和の日本型学校教育」を実現するため、「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の構築が求められています。

令和5年4月からは、「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律」により、教員免許更新制を発展的に解消し、より確実に学びの契機と機会が提供されるよう、教育委員会による教師の研修履歴の記録の作成と当該履歴を活用した資質向上に関する指導助言等の仕組みが施行されることとなりました。既に各学校で周知済みのことと思います。先生方におかれましては、これまでご自身の指導力向上を目指して様々な研修に取り組まれてきたことと思いますが、本研究協議会もそうした先生方のご努力にお力添えできるよう、より一層有意義な研究協議会とすべく、努力してまいります。

全道200を超える高等学校がございますが、複数の家庭科教員が配置されている学校が減少し、教科指導の相談がしにくい状況にあるのではないかと思います。ぜひ、本研究協議会をはじめとする集合型研修の機会を活用しスキルアップにつなげていただきたいと思います。

それでは、この2日間で先生方ご自身の授業実践の振り返りとなり、次につながる活力になることを期待申し上げ、オリエンテーションといたします。

提言1 変化への対応と普遍性の追求

～「子どもの発達を促す木のおもちゃ」の研究を軸に～

北海道森高等学校 教諭 金子真実

1 研究の目的

農林水産ともに豊かな森町の資源と、町や地域の協力体制により、本校では様々な「連携」による教育活動を行っている。本研究では総合学科の小規模校であるからこそ、より生徒一人ひとりを見つめ、「わかる楽しさ」と「地域との協働」から、地域で生きる「ひと」を育てる取組を実践し、その成果と課題、今後の展望について検証する。

(1)家庭科×地域

『「子どもの発達を促す木のおもちゃ」の研究』

令和2年度より3年次選択科目「子どもの発達と保育」において「子どもの発達を促す木のおもちゃ」づくりを行った。実際に子ども達に触れ、心身の発達について理解を深めた後、森町と林業の関係や木の魅力を森町役場の方に、木のおもちゃの保育効果について木育マイスター兼保育士に、安全とデザイン性について専門学校先生にご講義いただいた。夏季休業中の課題としておもちゃの設計図を作成、専門家会議において地元の職人、建築士・家具職人・大学の先生・専門学校の先生方にプレゼンテーションし、再考を重ね、製作していただいた。完成品は幼稚園に持参し実際に対象年齢の子ども達が遊ぶ様子から、事前に予測していた学びがあるか、それ以上の何が学びとなっていたのか、遊びの持続性について等検証した。

(2)家庭科×他教科×異校種

『茅部栗物語 絵本化プロジェクト』

北海道天然記念物であり森町の木である「茅部の栗」に纏わる『茅部栗物語』を、郷土を学ぶ材料とし、道立青少年体験活動施設ネイパル森・町内中学校・森小学校と連携し絵本づくり

に取り組んだ。本校では、地歴公民科(日本史)と家庭科(生活文化・フードデザイン)の授業内で絵本づくりに向けた取組をそれぞれ行った。

(3)家庭科×世界(留学生)

『森高生×留学生 平和について語る』

「本当に豊かな“生活文化”とは何か」をテーマに授業展開をしている3年次選択科目「生活文化」において、民族の違いや風習や価値観の違い、歴史的背景等を学んだ上で、平和を追求する方法を模索した。令和4年度は札幌の日本語学校に在籍する各国の留学生とZoomでつなぎ、平和について語り合う機会をもった。それぞれの歴史・文化の積み重ねの先に『平和について語る』が実現した。

(4)教科×教科の取組を全校へ

本校のオープンキャンパスには町内中学校の3年生が全員参加する。高校で学ぶべき内容をかみ砕き、それぞれの教科の特性や魅力をより表現し、生活や社会につなげ、公開するすべての授業を教科間連携で行った。授業力を磨く機会ともなった。

2 成果と課題

家庭科と他の教科、地域、異校種、多文化等様々な連携授業を取り入れた授業の実践と学校行事企画・運営を行った。連携授業が生徒の学びにとって有効であることは間違いなく、豊富な場面設定が生徒個々人の活躍できる機会を増やし、学ぶ楽しさの実感に繋がった。教科学習に収まらない視野の広がりや地域のみならず、変わりゆく社会や様々な世界を創る「ひと」を育てる。変動の大きい社会に適応していくために、連携の仕方や求めるべき場面想定を細かに変化させながらこれからも取り組んでいきたい。

提言2 分散で実施した被服実習の授業紹介

～コロナ禍での被服実習における評価の工夫と改善～

北海道小樽水産高等学校 教諭 遠藤 由希子

1 はじめに

コロナ禍で調理実習や地域連携を図る体験学習等に制限がかかる中、少しでも生徒に実習を経験させたいと思い、感染予防の上、被服室とHR教室に分かれて被服実習を実践した。

2 実践目的

個性豊かで学力差や能力差が大きい生徒たちに、基礎的・基本的な知識や技能の習得、苦手意識の軽減、完成したときの達成感、実生活に活かす力を育成することなどを目的に実践した。

3 実践内容

(1) 環境整備や裁縫道具の準備

手指消毒液、ペーパータオル、ハンドソープ、アクリル板等を用意した。裁縫道具は家庭科で準備し、実習後に消毒作業を行った。

(2) 使用教材

分散実習に対応でき、水産高校生に必要な手縫いの裁縫技術(漁具や船の装備の補修・修繕)の育成を目的とした手縫いの教材を選定した。

(3) 実習目標と作業工程を入れた予定表

被服実習前に実習目標等を入れた予定表を提示し、目標達成のために、生徒自身が主体的で計画的に取り組むことができるように工夫した。

(4) 学習プリント

分散・感染予防の決まりや心構え、自己評価と教員評価の評価を一緒に記録できる「自己評価シート」、製作物の点検やチェックの依頼機能とヘルプ機能を持つ「進捗表」を作成した。

(5) 教材研究

分散実習のため、実習助手の先生と一緒に、模造紙や実物資料の製作、作業工程の写真や動画の撮影とChromebookで視聴できるように整備するとともに、評価記録票の作成等を行った。

4 評価方法

(1) 家庭科の評価方法

観点別評価規準、各観点の割合、総括の方法を家庭科の教育活動の特性を踏まえて設定した。

(2) 被服実習の評価方法

評価項目・自己評価・教員評価を一緒に記録する自己評価シートを作成し観点別に評価した。

(3) 成績処理

被服実習の評価を含めた各観点の評価項目を4(1)(2)の方法を用いて成績処理をした。達成率と各観点の割合で算出した各観定の合計点により、評価や評定を決定した。

5 成果と課題

基礎的・基本的な知識や技能の習得には、教員が丁寧で一貫性のある指導を行う必要がある。製作物の完成度や積極的態度、自己評価シートへの記入、教員評価結果の高さ等を総合的に判断しても、今回の目的は達成できたと思う。また、被服実習では裁縫技術の向上だけでなく、諦めずに取り組む姿勢、計画性や主体性、問題解決能力、コミュニケーション能力等を育成することができる。適切な目標設定と、生徒を常に観察して臨機応変に指導形態を変化させること、生徒の特性を最大限想像した事前準備をすることが重要である。今後も、ICTと実物資料の最大限の活用、進捗表のデジタル化を図りたい。また、学習目標の達成度を明確にし、生徒が前向きに学習に取り組む仕組みと観点別評価の方法を模索し、生徒が意欲的に学習に励み、やる気が出る評価表記の方法を考えていきたい。

6 おわりに

コロナ禍での家庭科教育の実践は厳しい戦いの連続でした。先生方本当にお疲れ様でした。

分科会報告

第1分科会

北海道寿都高等学校 教諭 大澤 晴 香

1 提言に関する補足

家庭科には学校を動かす力がある。私たち教員1人ひとりが授業を作ることで、学校を作っていくことに繋がる。連携授業を他教科や外に広げていくことにすごく大きな意味がある。

2 提言に関する質疑応答

【質問】①どのような方法で人材を集めたのか。

②実習費・講師への謝礼はどうしたか。

【回答】①森町自体が木育のチームを組んでおり、役場を通して人材を集めたり、進路の来客との繋がりから。②0円。森町や森高校の振興会から援助を受けている。

【質問】①教科横断的授業の具体的内容。②その行い方。③学習評価実施報告書について。

【回答】①アラビア語などの言語を書いた3種類の水を用意し、文字が読めないことがどういふことか、食べ物を判断するのがどういふことかを外国語と家庭科の視点で考えさせる授業。

②先生同士で授業の進捗を確認し、家庭科でやってみたいことを提案する。③その子がこの時点からどう伸びたか、それをどう評価したかを先生方にきちんと説明してもらうために活用。

3 研究協議

(1)『他教科・地域との連携について』

(2)『評価の在り方について』

5グループで情報交換、まとめの発表

4 研究協議のまとめ

(1)農業科や商業科、公共や古典とのコラボレーション授業や、町とのタイアップによる商品開発、コンクールを利用するなど。

(2)主体的な力をどう評価していくのか、観点の分け方、毎時間の評価の難しさがある。

5 助言者からのまとめ

○北海道滝川西高等学校 教諭 吉村 佳名子

他教科・地域との連携について、どこかと繋がろうとか、人に助けを求めようと動き出すと、1つの繋がりが繋がりを呼び、それは、負担以上に成果があると感じる。また、普段私たちは高校生目線で考えるが、違った視点で物事を見ている人たちからの視野の広さを共有でき、授業だけでは発見できなかったことに短時間で気づける。連携により、それがこれからの生徒の活動の幅を広げる。家庭科の先生が学校の中で存在感を発揮して、いろんなチャンスに飛びついていくことで、子どもたちが自分で学ぼうとする姿勢を一気に育てられる。やれる時期やタイミング・方法などを模索していくとよい。

○北海道平取高等学校 教頭 後藤 あゆみ

評価の在り方についてはまず、不易と流行という言葉がある。家庭科の求めるものは基本的には変わっていないが、新しい評価の方法が入ってきた。評価の仕方はその時その時で変化する。私たちはこの新しい評価に合わせるという形で受け止めると、すごく楽になるのではないか。「目標と指導と評価の一体化」と考え、目標は、何が出来るようになるか(育成を目指す資質能力)、指導は、どんな風に学ぶか(学習方法や指導方法)、そして評価は、何が身に付いたか(学習評価の充実)とすると、もう少し楽に評価できる。また、基準はその学校の生徒の資質能力に合わせて作成してよいのである。

分科会報告

第2分科会

北海道知内高等学校 教諭 加藤 寿美代

1 第2分科会

提言者 北海道小樽水産高等学校

教諭 遠藤 由希子

学校の現状や特性について補足説明を行い、実習の実物作品等を示しながら、主体的学習に取り組む態度の評価実践について、補足説明を行った。



2 研究協議

(1) テーマ

- ①実習における評価、特に主体的に学習に取り組む態度を評価するための工夫と取り組みについて
- ②基礎的・基本的な技能を身に付ける実習の工夫について

(2) 研究協議の方法

5～6人の小グループに分かれ、各テーマ30分程度、テーマに応じた取り組みや、困り感についてあげながら、解決方法について探り、各班でまとめ、発表し・意見交換を行った。

3 まとめ

(1) テーマ①

家庭科技術検定の評価観点を、被服実習の評価に取り入れることで評価の基準が明確になるので、取り入れるのは有効である。

授業における取り組みの何を主体とするか、

授業始めに生徒に示しつつ、多様性に対応する評価を行うための、生徒の観察が必要である。生徒のスマールステップを評価するためにも、ルーブリックの作成をすることは有効である。

(2) テーマ②

作業・技術をピンポイントで各々がタブレットを使用し、確認できるような教材の作成を行えば、生徒が主体的に学び、進度の違いによる指導のしにくさを改善できる。また、生徒が互いに教えあうことも可能になるため、今後よりいっそうICT教材の活用及び教材作成が必要になる。

4 助言

○北海道栗山高等学校 教諭 上野 博美

生徒の興味関心・必要な技術は個によって違うため、何を目的として何を身に付けさせるかを見定め、実習の作業内容を見極めることも大切である。生徒自身が、自らの生活をよりよくしようという力を身に付けるためにも、被服実習が取り入れられると良い。

○北海道長万部高等学校 教頭 石川 博史

実習を行う場合は、生徒に根拠を示し、どんな資質や能力が身につくかを示すのがより効果的になる。作ることを実習の目的とせず、生きる力を身に付けることが重要である。主体的に取り組む力も学力であることをしっかりと踏まえながら、生徒が学習に見通しを持って取り組むことができるよう、私たちが取り組む必要がある。

第 72 回北海道高等学校家庭科教育研究協議会講評

北海道教育庁留萌教育局教育支援課高等学校教育指導班
主査 高 井 央



私からは両先生の研究発表について、「新学習指導要領における重要事項及び留意点」を踏まえた内容について講評させていただきます。

1 金子真実先生の提言について

1点目は、教科等横断授業を実践なさっている点です。取り組まれた「子どもの発達と保育」では、新学習指導要領「保育基礎」の目標を先んじて踏まえ、必要な場・環境を適切に提供することで、成果を求めようとする生徒が「どうすればよいか」と主体的に考えることで、思考力を伸ばすことにつながりました。また、活動内での「外部講師から Zoom による講演」及び「外部専門家達へのプレゼンテーション」を行うことで、コミュニケーションの機会を充実させた授業展開となり、対話的な学びである、自らの考えを広げ深めることとなりました。現在求められている STEAM 教育は、まさにこのことを指し社会に開かれた教育課程の理念の下、産業界等と連携し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていく高度な内容となるものであることから、高等学校における教科等横断的な学習の中で重点的に取り組むべきもので、その際、教師が一人一人に応じた学習活動を課すことで、児童生徒自身が主体的に学習テーマや探究方法等を設定することが重要です。2点目は、学校と地域や産業界が連携したキャリア・オーナーシップの醸成が成されている点です。「自分のキャリアは自分のものであることを自覚し、自らどうしたいのか、どうなりたいのか、納得いく生き方を続けていくために行動していこう」という当事者意識をもつことができるよう、カリキュラムマネジメントや選択教科選定に必要なエッセンスが随所に盛り込まれている内容でした。

2 遠藤由希子先生の提言について

1点目は、スクールポリシー及びカリキュラムポリシーを踏まえた授業実践をなさっている点です。専門高校で育成すべき資質・能力や個々の生徒の能力や実社会での課題と生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確に意識した上で、生徒が家庭科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視できるよう、学習の充実を図られるよう取り組んでおります。2点目は、新学習指導要領を意識した目標の設定や、評価規準の設定及び評価に取り組まれている点です。まず、学習評価の改善の基本的な考え方として、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること、学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう推進することに配慮いただく必要があります。日々の授業の中では、生徒の学習状況を適宜把握して指導に生かすことを重点に置きつつ、単元を見通して、観点別学習状況の評価をするために必要な記録をとるため、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を行い、評価を進めることが大切です。また、観点別学習状況の評価方法を適切なものを設定し、各学校や学科の特色、生徒の実態を十分に踏まえた上で、学習指導要領の目標に照らした指導計画と評価計画が不可欠であることから、観点別学習状況の評価の総括を行い、各学校の共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し、理解を得ることも必要となります。

グループ別体験研修報告

A 食生活セミナー

北海道札幌南高等学校 教諭 高橋 あき

1 主な内容

「おからで味噌づくり～手作り「発酵食品」と基礎知識」

2 参加人数 23名

3 講師

発酵食品マイスター 勝山 美幸 氏

4 会場

札幌エルプラザ 4階料理実習室

5 研修内容・成果

日本の食糧自給率の低さは、かねてより課題として取り上げられてきた。特に、日本人にとって馴染みの深い作物である大豆は、煮豆だけでなく醤油、豆腐、納豆、油揚げ、味噌と加工され、食卓には欠かせない食品であるが、その自給率は6%と非常に低い(2020年度農林水産省データ)。大豆加工食品であるおからは、豆乳や豆腐等の製造に伴い、副産物として大量に発生する。その量は使用した大豆(乾燥)の1.35倍と言われるほど多い。おからの主な用途は「飼料」「肥料」「産業廃棄物」となり、食用としての用途はわずか1%とされている。今回は、大量に廃棄されるおからの有効利用を考えた「おから味噌」について実践実習を含め、ご指導いただいた。

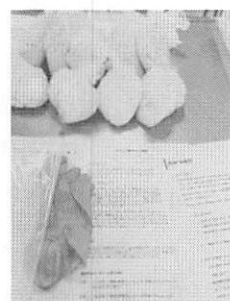
講義では縄文時代から製造されてきた日本の発酵食品の歴史や発酵に欠かせない麹の種類、麹菌の働きについての基礎知識を学んだ。麹菌は国内に250種類以上存在しており、アスペルギルス属には日本特有の国菌も含まれている。発酵をコントロールしながら、うま味成分を増幅させた発酵食品を作るために、その特徴を踏まえる重要性を確認した。

次に、講師の指導のもとで「おから味噌」づ

くりを実践した。材料は生米麹、おから、塩、豆乳のみで、15分程度で仕込みが完了した。味噌づくりは時間と手間がかかるイメージがあるが、「おから味噌」は手軽に取り組めるため、忙しく働く現代の社会人でも手作り発酵食品に挑戦できることを実感できた。

最後の質疑応答では、発酵過程における温度管理や完成後の使用における注意点、唐辛子を加えた辛味噌へのアレンジについてなど発展的な質問があがり、講師より丁寧にご説明いただいた。

生徒に還元する専門的な知識・技術を学ぶだけでなく、発酵食品づくりを通して日常の生活を楽しみ豊かにしていく視点の大切さを改めて確認することができる有意義な研修となった。



【講座担当者】

札幌工業高等学校	高橋	理緒
札幌東高等学校	稲見	郁子
函館水産高等学校	石川	佳寿美
旭川工業高等学校	岸本	美子
稚内高等学校	武石	彩
札幌南高等学校	高橋	あき

グループ別体験研修報告

B 被服セミナー

北海道名寄産業高等学校 教諭 坂上 真子

1 内容

- (1) 講話 「一枚の風呂敷で結ぶ縁」
- (2) 体験 結び体験
 - ・風呂敷デモンストレーション
 - ・風呂敷のサイズと素材について

2 参加人数 21名

3 講師

一般社団法人日本風呂敷文化協会
代表理事 横山 芳江氏

4 会場

かでの2・7 610会議室

5 研修内容・成果

はじめに、日本の風呂敷の魅力について、動画を通して世界に発信する活動の紹介があり、たった一枚の風呂敷でどんな形のものでも、包むことができる風呂敷の魅力をお話していただきました。

次に、歌に合わせて「真結び」、「ひとつ結び」という結び方を教えていただき、すいか包み、ショルダーバック、三角巾、寒さしのぎ、吸水袋や靴など、その結び方だけで何通りもの「包む」を体験しました。



何でも包める風呂敷一枚を、鞆に入れておくだけでエコバックとして利活用でき、ゴミの削減にもつながり環境に優しい。ユーモアのある絵柄など、風呂敷の模様によってはおしゃれを楽しめ、自分好みの一枚を見つける楽しさを教えていただきました。

災害時には、丈夫な吸水袋として活用できることや、靴の代わりとして足を守ることができるなど、人を優しく包み込み、人と人との縁を結ぶことにつながる風呂敷の素晴らしさを知ることができました。



今回の研修を通して、今の時代にも風呂敷がとても便利な道具として、また風呂敷を活用することで、SDGsや防災への取り組みにもつながる活動であることを理解することができました。

参加者からは、「今すぐにも風呂敷を活用したい」、「風呂敷の魅力を今後の教育活動に取り入れたい」などの感想が寄せられ、とても充実した体験研修となりました。

【講座担当者】

小樽桜陽高等学校	秋山 志保子
名寄産業高等学校	坂上 真子
湧別高等学校	加藤 安香音
天塩高等学校	山下 政俊
芦別高等学校	山田 真代
札幌白石高等学校	上澤田 朋子
帯広緑陽高等学校	品田 ひろみ

グループ別体験研修報告

C ライフデザインセミナー

北海道石狩翔陽高等学校 教諭 東 昌江

1 主な内容

女性の置かれている就業課題からこれからの働き方・生き方を考える

2 参加人数 13名

3 講師

readywork 福澤 由佳 様

4 会場

かでの2・7 620会議室

5 研修内容・成果

福澤様の自己紹介に始まり、経歴の紹介、なぜreadyworkという屋号にて個人事業主となったかの経緯、働く女性が置かれている現状や課題、働き方における注目の動きについて講演していただいた。

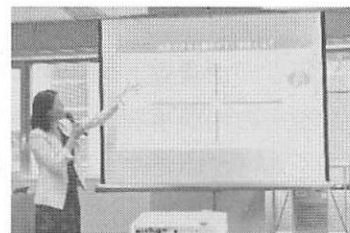
出産前の経歴は、社会人としての基盤を作ったリクルート時代(営業が面白い)、身につけたスキルを發揮したクックパッド時代(ザ・ベンチャー企業の勢いに乗り、人生もノリノリ)、東京に骨をうずめるつもりだったが結婚を機に札幌へ戻る。そこで「最前線」ではなく「バックオフィス」として働き、培った経験が活かして充実していた。妊娠・出産・新しい生活への期待感でワクワクだったが、まさかの挫折を味わう。子どもを保育園に預けて働く厳しさ、戦力になれないことへの焦りと立ちなどから退職という結果になる。専業主婦になった当初は良かったが、社会とつながっていないつらさ、夫の収入で生活する窮屈さを感じた。そこで専業主婦からパート社員へ、その後起業家として独立した。出産・子育てしている女性のためだけではなく、働く環境を整備し(働き方改革)、女性も男性もみんなが活躍できる社会に、そして誰もが働きやすくなるのが目的だった。自ら

が成長でき、働きやすい会社とはどのような会社かをわかりやすく解説して頂いた。

まずは、アンコンシャスバイアス「無意識の思い込み/偏見/差別」を無くすことが大切。そこで「観察力を磨くアートから考える」の本を使い簡単なワークを行った。自分の判断で解釈する、勝手に決めつけることはアンコンシャスバイアスをうむことを体験した。

次に、イントラパーソナルダイバーシティという一人ひとりが多様な視点(経験)を持ち、引き出しを増やし、役割を担っていくという考え方。これにより社員の一人ひとりが多様な視点を持つことで、新しいものが生み出されていく。これからは、働き方・生き方・在り方が多様化していく。「これをすれば良い」という成功の法則がない。見本(手本)となるロールモデルの多様化など、この混沌とした状況の中で、何をしてあげられるかが課題であると福澤さんはおっしゃっていた。

講義やワークを通してこれからの働き方・生き方を考えさせられる有意義な時間となった。今後の授業に活かしていきたい。



【講座担当者】

岩見沢西高等学校	佐藤 奈央子
石狩翔陽高等学校	東 昌江
当別高等学校	坂口 尚子
静内高等学校	大森 裕介
寿都高等学校	大澤 晴香

グループ別体験研修報告

D 消費生活セミナー

北海道釧路商業高等学校 教諭 上 杉 美 玖

1 主な内容

- (1) 消費生活センター内見学
- (2) 講義：「最近の消費者トラブルについて
～消費生活センターの相談事例から～」

2 参加人数 10名

3 講師

北海道立消費生活センター
教育啓発グループ 主査 齋藤清美 様

4 会場

北海道立消費生活センター 2階小会議室

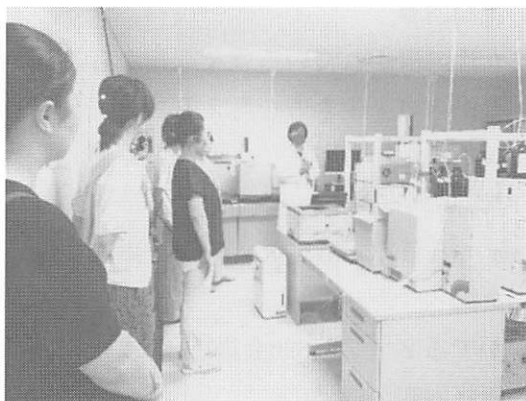
5 研修内容・成果

はじめに、消費生活センター内の展示ホール、商品テスト室を見学させていただきました。展示ホールには、商品の試買テストの結果や苦情品の依頼テストの結果が展示されていました。

講義では、まず令和4年度の消費生活相談報告書に基づいて、定期購入のトラブルが増加していることなど、最新の特徴を知ることができました。

次に、若年者の消費者トラブルについて、消費生活センターの相談事例から占いや宗教など様々な事例をあげていただき、その対処法についても学ぶことができました。

さらに、講義をお聞きする中で、消費者トラブルの未然防止のために消費者トラブルの内容だけでなく、対処法も併せて知ることが大切であると改めて実感することができました。



【講座担当者】

知内高等学校	加藤 寿美代
北海学園札幌高等学校	宮崎 円
釧路商業高等学校	上杉 美玖

北海道高等学校長協会家庭部会 調査研究委員会報告

「北海道の家庭科教員の抱える現状と課題」

北海道高等学校長協会家庭部会調査研究委員長
北海道苫前商業高等学校 校長 佐藤 恵 一

1 調査の趣旨と対象

本調査は、家庭科教育に係る現状の課題とその対応等を整理し、各科目等の目標や内容に照らした生徒の学習の実現状況について調査研究を行い、データ等を得るために実施した。

道立（市町村立を含む）と私立の高等学校及び中等教育学校の家庭科を担当する教員並びに生徒を調査対象とした。教員からは121校150名、生徒からは98校9071名の回答が寄せられた。

2 相関分析の結果

設問ごとに、R version 4.3.1 を用いて、ピアソンの積率相関係数を算出し、5.00以上を正の相関ありとして分析した。生徒対象の調査結果では相関が見られなかった。ここでは教員対象の調査結果で正の相関がみられた分析を紹介する。

設問9. 調理等の実習や実験で、繰り返し行わせて知識や技術の定着を図る活動を取り入れた授業を行っていますか。

設問11. 実習や実験、観察などの結果を整理したり、考察したりする学習活動を行っていますか。

設問12. ホームプロジェクト活動など問題解決的な学習を取り入れた授業を行っていますか。

設問9と設問11、設問11と設問12に正の相関が見られた。このことから、実習や実験を行う場合や問題解決的な学習を取り入れた授業の場合には、結果の整理や考察の学習活動が取り入れられていることがわかる。これは学習指導要

領の家庭科の目標に示されている“(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。”を意識した指導がされていると考えられる。

設問20. 仕事と家庭の両立や、男女の協力などの男女共同参画への理解を深める授業や指導の工夫をしていますか。

設問22. 今日的な諸課題（食品の安全性、環境、消費者問題、少子高齢化、SDGsなど）について、生徒の理解を深めたり、実践を促すための工夫をしていますか。

男女共同参画への理解を深める授業や指導の工夫をしている場合には、今日的な諸課題についても同様の指導をしている傾向がある。これは、男女共同参画が今日的な諸課題に含まれていることを示唆していると考えられる。

設問23. 今年度、調理実習を行うことができましたか。（予定含む）

設問24. 今年度、被服実習を行うことができましたか。（予定含む）

調理・被服実習の一方のみの実習を実施している教員は少なく、両方実施しているか、そもそも実習をしていないかという傾向がある。このことから、実習を行うかどうかについて、被服実習か調理実習かの差は小さく、実習をするかないかという教員の意識や学校設備が整っ

Ⅱ 令和5年度北海道高等学校
家庭クラブ連盟活動報告

北海道高等学校家庭クラブ連盟の活動について

北海道高等学校家庭クラブ連盟成人会長

北海道当別高等学校 校長 保 格 秀 規

日頃から本連盟の活動に対しまして、ご理解とご協力をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

学校家庭クラブは、家庭科で学んだことを基礎・基本とし、家庭生活や地域社会の課題を考え、その改善向上を図る意欲と実践力を育てる活動を行っています。活動の中心は「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」です。

「ホームプロジェクト」は、学校・家庭のために、一人ひとりが自分の生活を見つめ、家庭生活の充実向上を目指す実践活動です。

「学校家庭クラブ活動」は、グループや学校単位で学校や地域の生活の充実向上を目指す活動です。

家庭クラブ員の活動の成果を発表する場として、今年度も全国大会と全道大会が開催され、その結果を報告いたします。

令和5年7月27日・28日の2日間にわたり宮崎県シーガイアコンベンションセンターにおいて、「神話のふるさと宮崎から 語り継ごう 未来を創るものがたり」をテーマに第71回全国家庭クラブ研究発表大会が開催され、「ホームプロジェクトの部」と「学校家庭クラブ活動の部」に全国7ブロックの代表校が発表しました。

北海道代表として「学校家庭クラブ活動の部」に札幌北高等学校が『めざせ！未来のチェンジメーカー ～私たちから変えていくジェンダーフリーな社会へ～』をテーマに研究発表を行い、他の代表校に引けを取らない素晴らしい発表で、「文部科学大臣賞」を受賞、審査員から高い評価をいただきました。また、研究発表に続き、総会、生徒交流会や情報交換に北海道家庭クラブ連盟生徒会長の立石 乙笑さん（当別高等学

校）が出席し、全国のクラブ員同士と直接ふれあい、絆を深める機会となりました。

令和5年9月28日・29日には、北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会を、コロナ禍での工夫を活かし、厚真高等学校をホストにオンラインで開催しました。当日は、北海道の各地から地域に根付きながらも、「ホームプロジェクトの部」では2校、「学校家庭クラブ活動の部」では5校から発表があり、広く世界に発信できる力を確認できた大会となりました。

「ホームプロジェクトの部」では『食習慣改善』をテーマとした吉田 湖心さん（江別高等学校）が、「学校家庭クラブ活動の部」では『消費の力で世界を変える ～みんなが主役！Wise User～』をテーマとした札幌北高等学校がそれぞれ「最優秀賞」を受賞しました。両校は北海道代表として、令和6年度神奈川県で開催される全国大会で発表を行います。両校には今後、発表内容の更なる充実を図り、全国大会での飛躍を期待しています。

「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」は、家庭・地域を取り巻く生活課題を自ら考え、行動し、解決を図る探究学習活動であり、まさにこれからの時代に求められる資質・能力を育む絶好の機会であると考えます。

終わりになりますが、今後とも北海道高等学校家庭クラブ連盟の活動へのご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます、報告とさせていただきます。

第64回全国高等学校家庭クラブ指導者養成講座に参加して

北海道江別高等学校 教諭 秋田 貴子

令和5年8月3日(木)・4日(金)に東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された家庭クラブ指導者養成講座に、北海道江別高等学校2年岩本羽奈と1年森本颯稀、顧問の3人で参加してきました。クラブ員と顧問に分かれ、それぞれ2日間の研修を受講しました。

顧問教諭は、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 田邊 暁子様より「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の充実」という内容で講義を受けました。地域の人を巻き込み、楽しただけではなく、今後の広がりを感じ描きながら活動していくことの大切さを教えていただきました。

その後、8グループ(1グループ6人くらい)に分かれ、「見つけよう 楽しもう 私たちの学校家庭クラブ活動」という協議題のもと分科会があり、コロナ禍で途絶えた活動、コロナ禍で新たに作り上げた活動、今後実践するために必要な環境や条件について協議を行いました。最終日に協議のまとめを、各グループでスライドを作成して発表しました。自校で活動可能な実践例をたくさん知ることが出来ました。コロナで学んだ事も取り入れつつ、活動を再開していきたいです。

また、実践活動報告として、兵庫県立西脇高等学校の藤原容子先生から地場産業の播州織を活用したこれまで取り組みについて発表がありました。藤原先生は、家庭クラブ研究発表大会で2度文部科学大臣賞を受賞されています。古民家アトリエプロジェクトは、生徒の主体的な地域活動が展開されたすばらしい実践であり、藤原先生が、ものづくりと家庭科が大好きとい

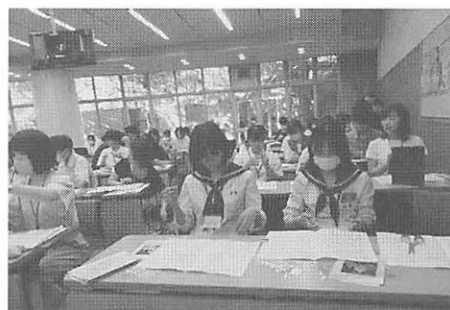
う気持ちが伝わってくる内容でした。

1日目の最後は、クラブ員と一緒に「タティングレース」を体験しました。これは、昔の貴婦人に愛された手芸で、小さなシャトルという道具を使い、糸の結び目を作ってレースに仕上げるものです。1時間で技術を習得するのは、非常に厳しかったです。

2日目は、金融庁総合政策局総合政策課長の渡邊 裕美子様から「金融リテラシーと金融教育の重要性」という題目で講義がありました。金融教育は投資教育ではなく、生徒が将来のための選択肢を増やすためのものであるということで、スマホでできるクイズやシミュレーター、金融教育を行っているところを紹介していただきました。

クラブ員は、1日目にクラブ員交流で都道府県BINGOをしました。その後、顧問教諭と同じ協議題で8グループ(1グループ11人くらい)の分科会がありました。2日目の最後にクラブ員報告をするために、プレゼンテーション資料を作成し発表しました。休憩時間もリハーサルをするなど、協力して準備をしており、どのグループも立派な発表をしていました。

今回、初めての参加した指導者養成講座でしたが、全国の先生方から新しい情報を教えていただき刺激を受けて戻ってきました。これからの活動に還元していきたいと思います。



第71回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会

北海道代表出場校として（学校家庭クラブ活動の部）

北海道札幌北高等学校 教諭 松本 奈巳

7月27、28日に宮崎県で行われた第71回全国高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会に生徒8名と参加してきました。宮崎県のホスピタリティ溢れる対応と心温かい大会運営に力をいただき、本校は学校家庭クラブ活動の部において「めざせ！未来のチェンジメーカー～私たちから変えていくジェンダーフリーな社会へ～」という発表題目で、文部科学大臣賞を受賞することができました。

当初は、“子育て支援に軸を置いたまちづくり”から始まった本研究でしたが、男女の家事労働の負担差や日本男性の育児休業が世界的にも優遇されているにも関わらず取得率が極めて低いことを家庭科の授業で知ったこと、性別役割分業意識の形成には昔からの教育や社会保障制度が大きく影響していること、ジェンダー問題の根本に存在するアンコンシャスバイアスの理解を深めたことにより、本テーマに大きく舵取りをすることになりました。日本のジェンダーギャップ指数が示すジェンダー平等の社会的格差が大きく、スコアや順位の変動もほとんど見られないがゆえ、研究の着地点をどこに持つていくかは大きな課題でした。しかし、単なる実践活動の羅列とならないよう、その都度、活動のねらいや成果をどのように測るかということを確認し、丁寧に取り組むことで、生徒達自身が研究の意義を改めて確認しながら、方向性を見つけていきました。私自身は、生徒が学べる環境を提供することと、生徒の“感性”と“行動力”を信頼して寄り添い続けることしかできませんでしたが、生徒の粘り強い取組と頑張りがこの結果につながったのだと思っています。

講評では、自分達の暮らしに対して、無意識

的・分かったつもりになっている自身のジェンダーバイアスに目を向け、実践活動による疑似体験や意見交換により多くの生徒がそれらを見つめ、気づきが得られたと評価していただきました。

本大会では、課題解決の方法やアプローチが、「私たち大人の想定以上」で「科学的」かつ「データに基づくもの」が増えてきていました。総合的な探究の時間の導入やSSHなどの取組が影響している部分も大いにあるとは思いますが、課題発見の感度はやはり家庭科の授業で高められると考えています。また、学校家庭クラブ活動については、全道各地の家庭科の先生方が既に生徒と共に取り組まれている内容と重なる部分が多々あります。だからこそ、その取組を生徒自身の力で「目的を定めて」「振り返り」「まとめて」「発表」するプロセスがあればなおのこと、生徒が活躍の場を得る機会の一つになるだけでなく、卒業後の力になると思っています。

最後になりますが、全国大会出場にあたりご協力・励ましくくださった関係機関や皆様に心から感謝申し上げます。



第72回北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会・総会を 終えて

令和5年度北海道高等学校家庭クラブ連盟研究大会・総会担当校
北海道厚真高等学校 教諭 黒田 さとみ

令和5年9月28日(木)～29日(金)の2日間、厚真高校を担当校として標記大会をオンラインで開催しました。加盟校12校の生徒、顧問、成人会長と来賓を含め113名が参加しました。研究発表では学校家庭クラブ活動の部5校、ホームプロジェクトの部2校が日頃の成果を発表し、生徒研修では風呂敷を使って包み方の体験をしました。

オンライン大会も3年目となり研究発表、生徒総会、養成講座報告等では場面切替やプレゼンテーション資料の共有などもスムーズに行えるようになりました。トラブルの際には、他校のクラブ員がアドバイスをして互いに助け合い自分たちで解決する姿が見られ、とても心強く感じました。

オンラインによる生徒研修では何ができるか生徒と悩みながら計画しましたが、風呂敷の結び方動画を作成し、ClassroomやJamboardを用いて楽しく充実した交流ができました。

なお、最優秀賞を受賞した学校家庭クラブ活動の部 札幌北高等学校家庭クラブ、ホームプロジェクトの部 江別高等学校 吉田 湖心さんは来年8月に神奈川県で行われる全国大会に北海道代表として出場します。

今後もより充実した活動ができるように顧問間で連携し、クラブ員や諸活動をサポートしていきたいと思います。



【大会概要】

9月28日(木)

時間	内容
13:45～	接続準備
14:00～	発表リハーサル発表 発表校7校
15:30～	顧問打ち合わせ

9月29日(金)

時間	内容
8:40～	接続準備
9:00～10:00	発表リハーサル
10:00～	開会式
10:30～	研究発表(SP・5校)
	昼休憩
13:00～	生徒総会(当別高校)
13:30～	指導者養成講座報告(江別高校)
13:50～	研究発表(HIP・2校)
14:20～	生徒研修
15:00～	閉会式
終了後	顧問会議

【大会結果】

(学校家庭クラブ活動の部)

支部	発表題目	学校名	賞
日 胆	エゾシカと暮らす	厚 真 高 校 家庭クラブ	スピーチ賞
上川留宗	牛乳をひとりポッチにはさせない!～乳製品の消費拡大～	浜 頓 別 高 校 家庭クラブ	企 画 賞
石 狩	消費の力で世界を変える ～みんなが主役!Wise User～	札 幌 北 高 校 家庭クラブ	最 優 秀 賞
上川留宗	アイヌ文化から学ぶSDGs	旭 川 永 額 高 校 家庭クラブ	アイディア賞
後 志	Support～スポーツは食事から～	値 知 安 高 校 家庭クラブ	優 秀 賞

(ホームプロジェクトの部)

支部	発表題目	学校名	発表者名	賞
石 狩	食習慣改善で健康に	江 別 高 校	2年 吉田 湖心	最 優 秀 賞
石 狩	家族が健康になれる食事	当 別 高 校	2年 古川 靖知	優 秀 賞

Ⅲ 令和5年度北海道家庭科
技術検定委員会活動報告

家庭科技術検定の実施について

北海道高等学校家庭科技術検定委員長

北海道三笠高等学校 校長 藤田 博 史

日ごろから、専門委員の先生方のご尽力や各校のご理解とご協力に、心から感謝を申し上げます。

今年度は7・8月に北海道で高校総体が開催されたことから、例年8月に実施の家庭科技術検定委員養成講座は3分野の開催日を別日程で実施しました。高校総体による影響を鑑み、江別高校で実施された被服は6月に実施し、保育と食物は例年どおりの時期に当別高校と三笠高校と、会場も分けて実施いたしました。次年度も先生方の要望等を踏まえて実施いたします。

令和5年度北海道の家庭科技術検定の状況については次のとおり報告いたします。

1 事業報告

(1) 専門委員

役 職	学校名	氏 名
全国・北海道(洋服)	江 別	狩野 千賀子
全国・北海道(和服)	函館大妻	笹森 美絵
全国・北海道(食物)	三 笠	斎田 雄司
全国・北海道(保育)	函館大妻	玉森 咲月
全国・北海道(保育)	当 別	足達 しずか
北 海 道 (被服)	江 別	山田 真規子
北 海 道 (食物)	名寄産業	中森 真也
北 海 道 (食物)	三 笠	鈴木 多恵
北 海 道 (保育)	当 別	高橋 真理

(2) 諸会議

- ①常任委員研究協議会 R5. 4. 17
- ②第1回専門委員研究協議会 R5. 4. 17
- ③家庭科技術検定評価研究協議会・
検定委員養成講座(被服) R5. 6. 30
- ④ " (保育) R5. 8. 3
- ⑤ " (食物) R5. 8. 4
- ⑥第2回専門委員研究協議会 R5. 11. 30

今年度、分野ごとに実施日及び会場を分けて実施した技術検定評価研究協議会及び検定委員養成講座は、全道各地からの参加者が実り多い研鑽を積みました。

2 被服製作・食物調理検定受検者数の推移

級	種目	R5	R4	R3	R2	R1
4級	被服	147	132	145	151	159
	食物	429	485	594	581	708
3級	被服	112	93	96	108	123
	食物	348	297	373	356	427
2級	和服	41	32	44	55	50
	洋服	41	34	38	47	46
	食物	125	146	144	148	175
1級	和服	34	39	45	50	56
	洋服	28	34	35	40	44
	食物	64	99	86	135	149
合計		1,369	1,391	1,600	1,671	1,937

3 保育検定受検者数

級	音楽・リズム 表現技術	造形 表現技術	言語 表現技術	家庭看護 技術
4級	94	255	175	124
3級	38	107	87	56
2級	21	17	21	21
1級	14	17	14	18
合計	167	396	297	219
(14校 合計1,079名(昨年14校1,110名))				

4 検定実施校数の推移

	R5	R4	R3	R2	R1	H30
実施校数	25	32	30	51	51	42

家庭科技術検定全国専門委員会に参加して（被服）

全国専門委員（被服）

函館大妻高等学校 教諭 笹森美絵

1 はじめに

令和5年度家庭科技術検定全国専門委員会が、5月23日（火）・24日（水）の2日間にわたり、ホテルメトロポリタンエドモントにおいて開催されました。全国から指導主事の先生をはじめ、専門委員の先生方175名の参加がありました。北海道からは江別高校の狩野千賀子教諭（本部委員）、三笠高校の斎田雄司教諭（食物調理）、当別高校の足達しずか教諭（保育）、函館大妻高校から笹森（和服）の4名の参加となりました。

2 全体会

1日目は、事務局長より日程の説明等があり、2日目は各分科会の報告がありました。事務局からは、周年記念事業や被服製作新4級プレコンクールについて報告がありました。その後、「家庭科技術検定の指導の充実に向けて～新学習指導要領の趣旨を明確にした技術検定の指導～」と題して、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官の田邊暁子様より講話がありました。学習指導要領の改訂について、共通教科「家庭」の改訂のポイント（実践的・体験的な学習活動）や目標の改善など、専門教科「家庭」では改訂のポイント（生活産業を通して、地域や社会の生活の質の向上と社会の発展を担う職業人を育成する）や目標の改善などを説明していただきました。

また、指導計画作成上の配慮事項に関して「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善により、質の高い学びを実現し、全ての生徒の可能性を引き出すなど、一連の学習過程の中で効果的にICTを活用していくと、より効果的になるとのことでした。最後に学習指導要領の趣旨を明確にした技術検定の指導ということ

で、生徒への効果的な指導・外部への広報・教師の指導力の向上の必要性をお話いただきました。

3 分科会

被服製作分科会では、令和4年度委員会報告が作問部と研究評価部よりあり、研究協議として令和4年度検定及び令和5年度以降の検定について作問部と研究評価部より説明がありました。次に新4級（令和6年度実施）検定の実技講習が行われました。作品評価では、評価の統一性を図るためグループに分かれ、新4級の作品を見て話し合いながら採点をしました。2日目の分科会では、班によって採点に大幅な差が出た点を重点的に精査し、評価の基準を確認することができました。分科会の終わりに指導主事より、「家庭科技術検定では物を作る喜びはもとより、集中力や段取りできる判断力も培われる。家庭科で学んだ基礎基本は生活にも活かされるため、技術検定を通してしっかりと指導してほしい。これが土台となり素晴らしいアイデアが生まれている。」との言葉がありました。

4 おわりに

全国専門委員会へ参加して、検定の受験者が減少傾向にあり再度家庭科技術検定あり方を考えさせられました。全国専門委員会で学んだことを周知させ、家庭科技術検定を広げていくために専門委員の先生方と協力して検定委員養成講座の内容を精査し、多くの先生方に参加していただけるよう考えていきたいと思いました。また、支部家庭科部会でも研究協議の題材として取り組んでいこうと思います。

家庭科技術検定全国専門委員会に参加して（食物調理）

全国専門委員（食物調理）

北海道三笠高等学校 教諭 斎田 雄司

1 はじめに

令和5年度の家庭科技術検定全国専門委員会が、5月23日（火）・24日（水）の2日間にわたり、東京都のホテルメトロポリタンエドモントにおいて開催されました。昨年同様、各都道府県で被服製作、食物調理、保育の分野の全国専門委員各1名の派遣となりました。本校は北海道技術検定代表理事校として2度目の参加となりました。

本会は、家庭科技術検定の評価や運営について共通理解を深め、技術検定の円滑で適正な実施を図るとともに家庭科教育の充実・振興に資する目的で開催をされました。23日（火）は開会式と全体会及び分科会、24日（水）は分科会、全体会が行われ、最後に国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官の田邊暁子様より講話がありました。

2 分科会

食物調理分科会では、令和4年度委員会報告が作問部と研究評価部より報告があり、研究協議として令和5年度以降の検定について作問部と研究評価部より説明がありました。

令和5年度検定については、第57回・第58回の検定指導要項及び評価基準について、細かく実施要項に記載の内容の確認が行われました。また、4級の課題であるきゅうりの半月切り、計量の評価方法と基準について4月に発売された食物調理資料（DVD）を使用して解説が行われました。合わせて、令和5年度前期（第57回）の指定調理課題であるハンバーグステーキ 付け合わせ パセリ（3級）、ホワイトソース（1級）のできばえの評価方法および基準についてもDVD教材を使用して共有されました。特にホ

ワイトソースについては加熱の状態、できばえ（色・状態）に対して写真資料を提示しながら評価点の参考が示されたので、大変参考になりました。

その他、検定試験を実施する上での質疑については、今年度、食物調理技術検定資料集が発行され、その資料の中に質疑応答集としてまとめられているので、検定実施校においては購入の上、内容を確認いただき、厳正に検定実施を行っていただきたいと思います。

分科会では情報交換会として各都道府県での食物調理評価講習会の実施方法について、グループに分かれて討議を行いました。各都道府県でそれぞれの実情に合わせた評価講習会を実施しており、北海道での実施方法の参考になる点もいくつかありました。今後の評価講習会の企画に生かしていきたいと思います。

最後に、指導助言として「実技の指導においては、師範を見せるだけでなく、生徒に見てほしいところをしっかりと説明すること。どうしてこうするのか、どうしてこの形、切り方になっているのか、などを説明することで、より効果的な指導になっていく。」とお言葉を頂きました。

4 おわりに

全国専門委員会へ参加して、食物調理技術検定の指導の留意点と評価の観点を十分に理解することができました。北海道内の検定実施校に対し、学んだことを十分に周知させていきたいと思っています。

学校家庭科技術検定全国専門委員会に参加して（保育）

全国専門委員（保育）

北海道当別高等学校 教諭 足達 しずか

1 はじめに

令和5年度の家庭科技術検定全国専門委員会
が、5月23日（火）・24日（水）の2日間にわたり、東京千代田区ホテルメトロポリタンエド
モントにおいて開催されました。北海道からは
本部役員として運営に携わる北海道札幌北高等
学校の今多靖子教諭、専門委員として私が参加
し、技術検定の評価の統一を図ることを目的に、
方法や運営の在り方について研究協議が行われ
ました。

2 全体会・分科会

23日（火）は、開会式・全体会・各会場に分
かれての分科会。翌24日（水）は分科会・全体
会が実施されました。文部科学省初等中等教育
局教育課程課教科調査官である田邊暁子様から、
講評・講話をいただきました。

3 評価講習会

(1) 音楽リズム表現技術

各級の実技を実演で紹介し、評価について詳
しい解説があり、「歌唱は歌詞をイメージし、そ
の内容をよく理解すること」、「ピアノ演奏は楽
譜をよく見て、曲想を理解して練習することや
合否の判定が難しい生徒をどのように評価する
か」、「歌い直し、弾き直しについての説明、歌
唱・演奏共に日頃から笑顔を意識した練習が大
切である」、「試験の時は目の前にいる子ども達
と心を合わせて楽しく歌う事を大切にす。」と
いうお話がありました。

(2) 家庭看護技術

前年度からの変更点の説明、各級の評価の観
点や得点の解説と動画を用いた具体的な事例を
挙げての指導方法の説明があり、「評価基準・実
施上の注意を確認し、用具の準備等を整えるこ

と」、「技術の習得だけでなく親になる可能性を
重視し、愛着の重要性や子どもの気持ちに寄り
添った適切な声かけを意識した指導が大切であ
る。」との補足がありました。

(3) 言語表現技術

4級～1級の実施についての解説があり、「絵
本の扱いについては折り癖を付けることの重要
性、持ち方とめくり方の注意点」、「各級共に丁
寧にはっきりと恥ずかしがらずに大きな声で繰
り返して読む」、「親子の対話の場面を想定して
ではなく、複数子ども達に読み聴かせている
場面を意識することが大切である。」とのお話し
がありました。

(4) 造形表現技術

各級の複数の生徒作品画像を用いた得点の
解説と解説に用いられた生徒の作品が展示さ
れており、実際に見て、得点基準を理解するこ
とができました。指導方法の解説があり、「各
級、それぞれ日頃から身のまわりにあるものを
観察し、見立てる力をつけることが重要であ
る。」と説明がありました。

4 指導助言

委員長の群馬県立富岡実業高等学校長名須川
史子様からは「評価の目を揃え公平な評価がで
きるように各都道府県での伝達講習が必要であ
ること」、「合格が最終目的ではなく、組み
組みの中から生徒自身が何を発見したかが重要
である。」とご助言いただきました。

5 おわりに

全国から集まる先生方から多くの刺激を受け
充実した時間となりました。また、検定に向け
た自分自身の課題を見いだす機会となり、一層、
指導方法の工夫をしていきたいと思ひます。

令和5年度北海道高等学校家庭科技術検定評価研究協議会

検定委員養成講座実施報告

北海道家庭科技術検定事務局

北海道三笠高等学校 教諭 齋田 雄司

1 はじめに

令和5年度北海道高等学校家庭科技術検定評価研究協議会・検定委員養成講座は全道の高等学校の家庭科教諭及び実習助手のべ32名が参加され、技術検定の指導方法・評価講習を受講いただきました。

今年度は、6月30日（金）に江別高校を会場に被服製作の講座、8月3日（木）に当別高校を会場に保育の講座、8月4日（金）三笠高校を会場に食物の講座を実施し、分野ごとに日にちと会場を分けて実施をしました。

2 評価研究協議会・検定委員養成講座

(1)食物調理

専門委員の三笠高校 鈴木多恵教諭、名寄産業高校 中森真也教諭の指導で10名の先生方に対し講習会を実施しました。実施内容は4級検定試験の実技課題である「きゅうりの半月切り」、3級検定試験の指定調理課題である「鮭のムニエル 付け合わせ レモン」「マセドアンサラダ」を学習していただきました。どちらの課題も生徒と同じ制限時間内で調理を体験していただき、出来上がった作品は複数人で評価基準に基づいて評価を行い、評価の目合わせを行いました。

(2)被服製作

専門委員の函館大妻高校 笹森美絵教諭、江別高校 狩野千賀子教諭、山田真規子教諭の指導で11名の先生方に対し講習会を実施しました。実施内容は午前3級の検定試験の実技課題である「アウターパンツの制作」の製作DVDを視聴した上でポケットの部分縫いの実技実習を行い、その後、生徒の作品を使用して評価研究を行いました。午後は4級検定試験の新たな実技課題である「基礎縫い」を学習していただきました。

出来上がった作品は複数人で評価基準に基づいて評価を行い、評価の目合わせを行いました。

(3)保育

専門委員の当別高校 足達しずか教諭、高橋真理教諭、函館大妻高校 玉森咲月教諭の指導で18名の先生方に対し講習会を実施しました。実施内容は4級検定試験を4種目（造形表現技術、音楽・リズム表現技術、家庭看護技術、言語表現技術）と3級検定試験の造形表現技術を学習していただきました。

3 参加者アンケートより

アンケートに回答された方全員から、講座の指導について「分かりやすかった」「とても分かりやすかった」と感想をいただきました。食物調理の講座については、「生徒に何をどのように指導すればよいかを体験的に知ることができた。」被服製作の講座については、「新4級についてわかりやすく説明があり良かった。」保育の講座については、「造形表現技術以外の4級課題を学ぶことができ大変勉強になった。」「次年度は造形以外の種目も受検させてみたい。」などおおむね良い評価をいただきました。

4 次年度の実施について

評価研究協議会・検定委員養成講座は公正公平な検定実施及び評価を行っていただくために毎年実施しております。検定実施校の担当の先生方は是非ともご参加をご検討ください。

検定委員養成講座は各校で比較的取り組みやすい3・4級を中心に実施をしております。

今年度実施の反省を活かして次年度の実施の計画をしております。多くの先生方のご参加お待ちしております。また参加後は検定試験の導入をぜひともご検討ください。

IV 家庭科教育に関する報告

第 11 回北海道高等学校長協会家庭部会意見・体験発表大会 を開催して

北海道高等学校長協会家庭部会意見・体験発表大会事務局
北海道江別高等学校 教諭 鈴木 朋 美

1 大会を運営して

今年度で 11 回目を迎えた家庭部会意見・体験発表大会は、『全道の高等学校で家庭・福祉を学んでいる生徒が、日頃の学習で学んだことの成果について、意見や体験を発表するとともに、生徒相互の交流をとおして、「生きる力」を育み、家庭・福祉教育の充実を図る』ことを目的に実施しています。

昨年度は一部オンラインで参加した学校もありましたが、今年度は本校を会場に参加者が一堂に会して実施することができました。

当日は来賓として北海道教育庁教育局山本昌枝主査をお迎えし、北海道森高等学校佐紺撰子校長先生をはじめとする 3 名の校長先生方が審査を行い、9 名の生徒が発表を行いました。

いずれの内容も、「家庭・福祉」の授業や実習・体験・ホームプロジェクトなどとおして、自分の進路や夢・生き方につなげた発表でした。どの発表も、多様化した社会の中で、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる家庭・福祉教育の「生きる力」を感じることができました。また、今年度は発表終了後短時間ではありましたが、本校の家庭クラブ役員も参加し、羊毛フェルトを作る体験を行い、交流を深めることができました。

今年度参加いただいた各校の生徒の皆さん、ご指導をいただいた先生方には深く感謝申し上げます。来年度もより多くの生徒が参加できるよう、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

2 大会参加者

- (1) 当別高校 佐藤 里紅
『信頼される保育士をめざして～私が当別高校家政科で学ぶ理由～』
- (2) 蘭越高校 柴田 琉樹
『多様性を受け入れて～だれもが生きやすい社会づくりを目指して～』
- (3) 剣淵高校 阿部 未徠
『介護福祉士になるために』
- (4) 置戸高校 河合 瑛音
『雲外蒼天～母の小さな背中と私の大きな夢～』
- (5) 余市紅志高校 笹山 莉加
『「障がい者」と向き合っていく』
- (6) 江別高校 辻 夏望
『将来への前進』
- (7) 三笠高校 難波 沙綾
『夢へと踏み出す一歩』
- (8) 石狩翔陽高校 植田 美由
『信頼される介護士を目指して～「あなたでよかった」そう言ってもらえるために～』
- (9) 名寄産業高校 今野 陽南
『最後にできること』

3 大会結果

最優秀賞 石狩翔陽高校 植田 美由
優秀賞（産振推薦）置戸高校 河合 瑛音
優秀賞（産振推薦）三笠高校 難波 沙綾



第11回北海道高等学校長協会家庭部会意見・体験発表大会

に参加して

発表者 北海道石狩翔陽高等学校 3年 植田 美由
指導者 北海道石狩翔陽高等学校 教諭 居内 映莉子

1 生徒原稿

将来の夢はなに？と誰かに聞かれると少しずつ働く母の姿をイメージするようになっていました。「植田さんがいい」と利用者様から信頼されている介護福祉士の母。生き生きと働く母の姿はいつも輝いていました。幼い頃に思っていた「さみしい」「そばにいてほしい」という思いを越えて、求められる介護士になりたい。そう強く思うようになったのです。

その思いを胸に、福祉を広く学べる石狩翔陽高校に入学しました。あこがれていた母を思い浮かべながら、福祉の勉強を進めていく中で、支えを必要としている方の役に立ちたい、心のサポートをしたい。そう思う気持ちが強くなりました。しかし、必要な知識や技術の中には、私が一番苦手としているコミュニケーション力が求められます。私は自分に自信がなく、いつも相手にどう映っているのか・・・そう思えば思うほど、自信がなくなり、自分の気持ちを表現して、うまくコミュニケーションを図ることができなくなるのです。そんな自分が好きになれず、自信も持てず、変わりたいのに変わらない。母のように、相手の気持ちを感じながら笑顔で利用者様と関わり、利用者様を笑顔にする。そんなあこがれの気持ちとは逆の自分がとても嫌でした。

2年生のインターンシップで高齢者施設へ行った時のこと。いざ利用者様を目の当たりにすると、どうしたらいいのかわからなく、職員の方の後ろについて歩くだけ・・・同級生は利用者様とスムーズにコミュニケーションを図っていて充実している様子なのに、わたしは・・・。そんな事ばかりを考えて、いつもと同じ自信のない自分でしたが、利用者様と関わらせていた

だくと、そこには、支えを必要とする様々な方がいらっしゃいました。授業で福祉を学んでいましたが、教科書や授業では決して学ぶ事ができない、一番大切な事を学んだ気がしました。それは、一人一人の利用者様には、これまで生きてきた歴史があり、置かれている状況は人それぞれ異なります。病気や障害による悲しみや苦しみ、怒り・・・その人にしかわからない思いの中で毎日生活していらっしゃることに気がされました。もっともっと元気でいたい、家族に迷惑を掛けたくない、トイレに一人で行きたい、好きなものを思い切り食べたい。私たちにとって当たり前のことが利用者様には難しい事の方が多い・・・そんな事を思うと切なくて苦しくて胸が締め付けられる思いになりました。自分がしなければならないことが少しずつ明確になってきて、私を動かす大きな力をとったのです。

インターンシップでの経験が、自分を変えるきっかけとなりました。仲間や先生から「植田さん、なんか変わったね・・・」と他者からも認めてもらえたことに自信をもてるようになりました。

母のように「あなたでよかった」そう、たくさんの方の利用者様の思いに応えていける、介護士をめざして！！私はこれからも変わり続ける！！何度でも！！私らしく！！

2 生徒を指導して

生徒は自分自身の課題と向き合い、将来の夢を明確にすることができました。本大会に参加することができ、交流会や他校の生徒の発表から大変多くの刺激を受けた様子でした。このような機会をいただきありがとうございました。

第11回北海道高等学校長協会家庭部会意見・体験発表大会

に参加して（家庭部会）

発表者 北海道三笠高等学校 3年 難 波 沙 綾

指導者 北海道三笠高等学校 教諭 明 石 絵 美

1 生徒原稿

中学三年生の夏、先生の勧めをきっかけに、自分の作ったお菓子を食べて、笑顔になってもらえることが好きだった私は三笠高校への入学を決意しました。入学直後は毎日が不安でしたが、現在は充実した高校生活に変えることができ、自分なりの夢を持てるようになりました。

「和菓子職人になりたい。」私がそう思ったのは、一年生の実習で練り切りの存在を知ってからです。講師の手から作り出される和菓子の一つ一つの工程にどんどん魅了されていきました。練り切りとは、白餡を着色、成形して季節の花などの形に仕上げる和菓子のことです。練り切りの存在を知らなかった私は、全て手作業で白餡から桜の形へ仕上がっていく繊細な作業に感動し、実際に作ることの楽しさを知りました。様々な和菓子や練り切りに触れるたびに、洋菓子とは全く違う技法で作られる工程に驚かされ、さらに興味を持つようになりました。

和菓子作りでは三角棒という道具で様々な模様をつけるだけでなく、様々な技法で着色することができます。これらは和菓子特有の季節感や繊細さを演出する上でとても大切です。和菓子の美しさ、作ることの楽しさを知った私は、パティシエではなく和菓子職人への道を進もうと決めました。

そんな和菓子を作り出す職人になるため、三笠高校での学習を通じ、私なりに様々な力を成長させてきました。その一つに「人に見られながらも作業を正確にこなす力」があります。和菓子には出来上がった作品の美しさだけでなく、和菓子作りの技法にも美しさがあります。その美しさは作業工程をお客様に見ていただくこ

とで、和菓子にしか出せない美しさをお伝えできると考えています。一年生の頃は先生に作業工程をチェックされていると思うだけで作業に集中することができませんでした。そこで人に見られる苦手意識を克服するため、練習中は友人に作業を見てもらい、いつもの作業とどこが違うか再確認していきました。すると二年生の実技試験ではその成果が現れ、クラスで1位という成績を修めることができ、努力が実を結ぶことの達成感も全身で感じることができました。

他に私が大きく影響を受けたのは、就業体験での経験です。最初は私が作ると商品には統一感がなく技術の未熟さを実感しました。しかしその原因が周りの人に影響され自らの行動を急かしていることにあると気づき、意識を変え、自分にできる精一杯の早さで作業を進めることで商品に統一性を持たせることができました。

高校3年生になった今、私の夢はお客様を笑顔にし、和菓子の魅力を伝えられる和菓子職人になることです。夢への実現には数多くの困難があり、長い道のりになることが想像できます。その覚悟を持って、三笠高校に入学することを決意したあの日と同じように、私はまた大きな一歩を踏み出します。国を超えて多くの人を笑顔にできる和菓子職人になるため、これからも努力を続けていきたいです。

2 生徒を指導して

生徒自らが高校生活を振り返り、自分の将来像を再確認することで、残り少ない高校生活を充実させようという意識が強くなったと思います。大会では校種の異なる高校生が様々な取り組みをしていることを知り、見聞を広げることができました。

第11回北海道高等学校長協会家庭部会意見・体験発表大会

に参加して（福祉部会）

発表者 北海道置戸高等学校 2年 河合 瑛音

指導者 北海道置戸高等学校 教諭 三浦 玲奈

1 生徒原稿

『雲外蒼天』皆さんはこの言葉を聞いたことはありますか。雲を突き抜けたその先には、青空が広がっている、つまりどんな試練でも努力して乗り越えれば、快い青空が望めるという意味です。恩師が私にくれた言葉を胸に、私は介護福祉士という夢の実現に向けて努力を続けています。

私が介護福祉士になりたいと思ったきっかけは、幼い頃、母が介護福祉士として働く姿を見た時に、憧れと尊敬の念を抱いたからです。その夢を最短で実現できる置戸高校を知った時は、迷わずここに進学しようと決めました。

高校入学後、2回目の施設見学日を迎えました。しかし、たくさんの利用者様を目にして、えーっと・・・、何を話したらいいのだろう・・・。その時、働く母の笑顔が浮かびました。よし、自分も・・・！「こんにちは！レク、楽しみですね！」すると、「あら、あんた元気いいね～」と返してくれた利用者様。踏み出せた一歩が自信となり、その後も利用者様と笑顔が通い合い、憧れていた母に一步近づけた気がしました。それと同時に、もっと利用者様のことを知って、心を通わせたい！私に関わることで、利用者様の表情がぱっと明るくなって、安心して身体をあずけてもらえるような、そんな信頼される介護福祉士になりたい！幼い頃に見た、母のように！こうして介護の奥深さを知り、学ぶ意欲はどんどん高まっていきました。

冬を迎え、介護技術を学ぶ授業が始まりました。しかし、テストに1回で合格することはなかなかできません。私は自分自身を振り返りました。介護中、利用者様の顔色や表情、反応を

全然見ていなかったし、自分の動作ばかりに意識が集中して、安心できるような声かけもできていなかった・・・自分が利用者の立場だったら、そんな介護士よりも、異変にいち早く気づき、私のことを常に気にかけてくれる介護士にそばにいてもらいたい。

皆さんは、どんな介護士にそばにいてもらいたいですか？きっと、私と同じ想いではないでしょうか。人と人の触れ合い、温もり、目と目が合う喜びや安心感、目の前のあなたを想って、あなたの気持ちに寄り添う介護がしたい！そんな想いで日々練習に取り組んでいます。秋にはいよいよ、3週間の介護施設実習があります。利用者様の視点に立ち、想いに寄り添うことで信頼関係を築いていきたいです。

最後に、私には大きな夢があります。それは、介護の魅力を発信し、将来日本を支える子供たちの憧れの存在になることです。様々な学校を訪れ、介護の魅力に触れてもらい、今まで介護に興味のなかった人が「介護ってマイナスなイメージがあったけど、なんだ、面白いじゃん！」

「将来の夢悩んでいたけど、河合さんのような介護士いいかも！」そう思ってもらえるような存在になりたいです。そして、日本の超高齢社会を僕達が支えていきます。

『雲外蒼天』晴れ渡る空を見られる日を信じて。

2 生徒を指導して

自分の考えを表明することを苦手としていた生徒でしたが、本活動を通して、自分に自信がつき、日頃の挨拶や受け答えが表情豊かになったり、授業中に自分の意見を積極的に言うようになり、大きな成長を感じています。夢の実現に向けて、恐れずに挑戦し続けて欲しいです。

第61回北海道高等学校教育研究大会

教科別集会家庭部会を終えて

北海道札幌東陵高等学校 教諭 影山文那

令和6年1月12日(金)、札幌エルプラザにおいて、研究主題「生涯を見通してよりよい生活を創造する力を育む家庭科教育」のもと、全道から57名が参加し、開催された。

1 総会

令和4年度事業報告・決算報告・会計監査報告、令和5年度事業計画・予算報告が承認された。令和6年度研究主題は役員・運営委員会に一任され、研究紀要執筆地区について確認した。

2 講演

演題:「居場所を届けて・君の椅子という名の旅」
～量的拡大を基軸とする社会から 人と人の心とむすぶを基軸とする社会へ～

講師:北海道文化財団理事長 磯田 憲一 氏
地域力を生かして子どもの誕生を喜び合う社会を取り戻したいと、2005年に「君の椅子プロジェクト」を立ち上げた。旭川の地域力は家具である。プロジェクトとしては職人に総合の対価を払うことで技術力を守りたいという思いもある。君の椅子プロジェクトは、戦後社会の発展系の経済効率というものと対極にあるような仕組みが育まれている。北海道のミズナラが全国の家族の思い出を刻む記録装置になっていると言える。今回の能登半島地震は、本当に何が大切なのかを考える機会となった。

3 研究協議

(1) 研究発表

主題:「家庭基礎における“ICTの活用”と“個別最適な学び”を意識したホームプロジェクトの実践」

発表:北海道上富良野高等学校

教諭 千葉 和代

デジタルコンテンツを活用し、生徒が長期休業から取り組み、授業で発表する形式で行った。

全体の成果として、ホームプロジェクト自体が個別最適な学びそのものであると再認識した実践となった。ICTやデジタルコンテンツを活用することで、授業の準備時間の削減、生徒への利便性向上、創意工夫がみえた発表につながった。また、生徒がICTを繰り返し活用することによって慣れ、学び合いが加速したことが報告された。

(2) 情報交換

「3観点の基準と評価のポイント」と「評定にする時の工夫と課題」について協議、各校での取り組み等の情報交換が行われた。

(3) 講評

北海道教育庁学校教育局高校総体推進課
高校総体競技係主査 近藤 麻理子 様
生徒の実態を把握し、目指すべきゴールイメージを生徒自身が確認できるように工夫され、深い学びの実現につながる取り組みがされている。ホームプロジェクトの実践の中で、生徒自身が日常生活において課題発見ができるように手立てとして、取り組みの可視化、効果的なICTの活用、発表方法の工夫をする等、各校でも生徒の実態に合わせて学習過程を検討して欲しいとの講評をいただいた。

4 研究紀要

タイトル:「産学官連携事業における実践的な学び」
執筆:北海道月形高等学校

教諭 駒谷 綾子

地域との連携事業として、フラワーアレンジメント体験や地域の商品開発、中高交流授業を行っている。また、ANA あきんど株式会社、月形町、月形刑務所、との連携により、ふるさと納税返礼品の開発に取り組んでいることが示されている。

初任段階研修 1 年次研修（高等学校）に参加して

初任段階教員研修 教科別研修 家庭科について

北海道遠軽高等学校 教諭 宮 森 万 実

1 教科別初任段階研修について

(1)はじめに

第Ⅰ期の研修ではオホーツク管内の高等学校、特別支援学校高等部の初任者が対象となる研修に参加しました。第Ⅱ期では教科別の初任段階研修が実施され、授業についての改善点や新たな視点、工夫点を見つけることができたため、ここでは第Ⅱ研修について記します。

(2)研修 1

研修 1 のテーマは授業改善「道德教育、特別活動、総合的な探究の時間」でした。道德教育では家庭科は教科の特性上、生徒の家庭事情やセクシャリティについて考える場面が多くあり、十分に配慮して授業を実施しなくてはならないことを再認識できたとともに、そのような場면을上手く活用することで生徒の視野を広げる道德教育が教科教育の中でも可能だと感じました。

総合的な探究の時間では調べ学習そのものが「探究」ではなく、PDCA サイクルを回し、自身で課題設定すること、収集した情報を整理し、自身の考えをまとめ、実践することで自己実現ができるのだと改めて感じました。家庭科ではホームプロジェクトなどで活用していきたいです。

特別活動ではホームルーム活動や生徒会、学校行事が教師主体になってはいないかを意識することが重要だと感じました。教師からの一方的な指示で生徒に主体性が生まれず、画一的かつ作業的に物事を決定するのではなく、生徒が疑問をもち自分事として協議し合えるような環境整備に教師は注力するべきだと学びました。授業だけでなく、今後の学級経営や生徒指導に役立てていきたいと思っています。

(3)研修 2

研修 2 のテーマは「授業実践の交流、指導計画の検証・改善」でした。課業期間中に事前に作成した単元指導と評価の計画、学習指導案について教育局の方々と協議し、多くのことを学びました。

家族・家庭、消費生活の範囲については社会科と教科横断的な指導の実施がしやすく、互いの専門性の良い部分を生かして授業ができるのではないかと感じました。また、私自身、金融経済の知識が足りていないと感じているので、教材研究に励むとともに、専門機関と連携し、授業を実施することも前向きに検討したいです。ABC の評価については規準を設けることはもちろん、机間指導の中で普段 C 評価がついている生徒は発見しやすく、手立てを講じ、B 評価を目指せる指導の必要があることを再確認しました。また、グループワークでは普段 A 評価がつくことの多い生徒への課題、学び合いの機会の設定をすることの大切さ、個に応じた指導と習熟の程度に応じた指導の在り方について、考えを深められました。

(4)研修を終えて

研修を通し、教材研究とともに指導、評価の在り方についてよく考えた上で、課題とそれを達成するための活動を考え、授業を組んでいくことをより意識することができました。また、地元の料理人の方が講師を務める地域と連携した授業実践例や、ポートフォリオを活用した授業を紹介していただき、自身の授業の参考となる非常に良い経験でした。今後も教材研究を重ね、生徒の反応を観察し、自身の授業と日々向き合うことで良い授業ができるよう精進していきたいと思っています。

中堅教諭資質向上研修（高等学校）に参加して

第Ⅰ期・第Ⅱ期研修教科別部会（家庭科）に参加して

北海道美唄尚栄高等学校 教諭 風上 沙織

1 目的

教育公務員特例法第24条に基づき、中堅教諭として必要な資質能力の育成・向上が図られるよう、講義や協議、演習等を通じて、中核的な役割を果たすことが期待される教諭としての職務の遂行に必要な事項に関する実践的な研修を行う。

2 日程

第Ⅰ期 オンデマンド研修

第Ⅱ期 2023年12月21日（木）

3 研修内容

第Ⅰ期

講師…留萌教育局高等学校教育指導班

主査 高井 央氏

(1) 講義のねらい

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を実施するために、学習評価やICTを活用した授業改善について理解を深める。

(2) キーとなる資質能力

①授業力

②新たな教育課題への対応力

③ICTや情報・教育データを利活用する力

(3) 主な内容

①家庭科教育の現状と課題及び新学習指導要領について

②「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の実際

③教育課程編成・実施と改善

④主体的・対話的で深い学びについて

⑤指導と評価の一体化

⑥ミドルリーダーとしての役割と指導の充実に向けた方策

(4) 課業期間中の実践

①単元の指導と評価の計画

②学習指導案

※第Ⅰ期オンデマンド研修で学んだ「学習指導要領改訂のポイントについて」、「指導と評価の一体化のための学習評価について」、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に基づいて作成した題材指導計画(評価も含む)に従って実際に指導を行い、その実施状況、課題等について第Ⅱ期研修で10分程度のプレゼンテーションを行う。

第Ⅱ期(zoomによる遠隔研修)

講師・助言者

高校総体推進課競技係

主査 近藤 麻理子氏

留萌教育局高等学校教育指導班

主査 高井 央氏

(1) ねらい

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

(2) 主な内容

①教科指導の工夫改善

②授業実践共有

③ICTを効果的に活用した授業改善

④研修の振り返り

4 おわりに

今年度も、オンデマンド形式やzoomによる遠隔形式で研修を実施した。ICTを活用した授業の展開など、各校の先生方と意見を出し合い、多くのことを学ばせていただいた。

今後はこの研修での学びを、家庭科教育の充実に生かしていきたい。

V 福祉教育等に関する報告

第21回「福祉に関する教科・科目設置校研究協議会」を終えて

第21回「福祉に関する教科・科目設置校研究協議会」当番校
北海道置戸高等学校 校長 長尾 勝 恵

1 開会式

標記研究協議会が令和5年9月22日(金)、本校を会場に開催された。北海道高等学校長協会家庭部会長 古市俊章 校長の主催者挨拶で実施した。

2 基調講演

『これからの福祉科教育に期待すること』

文部科学省 初等中等教育局参事官(高等学校担当) 付産業教育振興室 教科調査官

辻本 智加子 様

新学習指導要領の着実な実施に向けて、2040年頃の社会の姿を想像し、その時、教育には新しい社会で生き抜く力が必要であることを認知し、改めて学習指導要領改訂の考え方を確認した。小学校家庭科の事例から、資質・能力の育成に向けた授業作りとはどのようなものかを考え、知識と技術を身に付けるために、生徒にとって必要な学習活動とは何かを考えた。

なお、この講演は、オンラインによる実施であったが、ペアワーク等、交流する場面をいただき、中身の濃い時間を過ごすことができた。

3 基調報告

報告者 北海道剣淵高等学校 齋藤克幸 校長、及び福祉部長 大石 由希 教諭

「全国福祉高等学校長会 第27回総会・研究協議会 並びに福祉担当教員等研究協議会 宮城大会について」報告

(1)『介護人材確保と介護福祉士への期待』の基調講演で、科学的介護情報システム(LIFE)の活用として「介護過程+LIFE=介護の質の向上」を推奨された。また、現在の介護福祉士養成課程の中において介護福祉士とは、介護職グループの中で中核的な役割を果たす

ことを期待されている。したがって、チームリーダーと成り得る人材を意識的に育成することも課せられているとのことであった。

(2)今年度から規約が改正された。理事長は要望申請等の対応で多忙なため、副理事長を3名配置し、それぞれに役割を整備し、責任を持たせることとなった。

(3)全国高等学校福祉教育振興会(仮称)設立について提案された。現在実施している各種事業を一部移管するなどを設立目的としている。また、設立時の役員案も提示され、了承された。

4 研究協議Ⅰ

参加者全員で、1年生「介護福祉基礎」科目の単元「介護の意義と役割(自立に向けた支援)」の授業を見学した。授業では、GoogleFormとJamboardを組み合わせた内容であり、生徒の特性を十分に考慮した展開が可変的であった。



5 研究協議Ⅱ

「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について」と題し、実施した。ICT活用に関しては、各学校が置かれている環境やルール作りの難しさが挙げられていた。授業進度と個々の生徒の活用進度との差により、教員の待つ姿勢などが試される。また、探究活動に際しては非常に有効な学習方法の手段であると捉えられ、時間を忘れて話し合う様子が窺えた。



第8回北海道地区高校生介護技術コンテストを開催して

第8回北海道地区高校生介護技術コンテスト当番校

北海道留寿都高等学校 教諭 大内 亜瑞沙

1 コンテストを終えて

今年度で8回目の開催を迎えた北海道地区高校生介護技術コンテストは、「福祉を学ぶ生徒が介護技術を高めるとともに、様々な介護場面に対して適切かつ安全に支援できる能力を育成する」ことを目的とし、8月25日（金）に当別町にある北海道医療大学にて開催しました。3年ぶりに有観客での開催となり、福祉施設関係者や福祉系高校の関係者等、総勢約120名が来場しました。また、コンテストを配信することで、来場していない各出場校の関係者に幅広く視聴していただきました。

モデル役を北海道介護福祉士会の阿部友紀様、審査員を北海道介護福祉士会理事の岩村学様、北海道医療大学の池森康裕様に審査をしていただきました。事例（次ページに掲載）の桜井直美さんの心身の状態を踏まえた声掛け、エビデンスに基づいた自立支援、自己決定や個人を尊重した介助の実施、介護者同士の連携等を審査の観点として評価し、最優秀賞に輝いた北海道剣淵高等学校は、10月に福井県で開催の全国高校生介護技術コンテストの北海道代表として出場権を得ました。岩村様からは、「チームで話し合い、必要な声掛けや場面に応じた配慮を考えていた。実習等の経験が対応力に繋がっていると思う。今回のように根拠を説明できる介護福祉士を目指してほしい。」池森様からは、「利用者個人を尊重したケアを考え、心身状況に応じたサポートをチームで考えられていた。大勢の前でケアを披露したことを自信に繋げてほしい。」と講評をいただきました。

コンテスト終了後は、出場校の生徒達の交流会が行われました。コンテストの緊張感を分か

ち合った介護を学ぶ仲間との意見交流を楽しんでいました。

このコンテストを開催するにあたり、多くの後援、協賛を賜りましたことを心からお礼申し上げます。

2 コンテスト結果と参加校

	学校名	生徒名
最優秀賞	北海道剣淵高等学校	青山 晴香 柳杭田 琉伽 佐藤 菜々美
優秀賞	北海道石狩翔陽高等学校	大沼 静音 若木 真之介 植田 美由
奨励賞	北海道置戸高等学校	有金 将弥 佐々木 そよか 川村 優弥
	北海道留寿都高等学校	佐藤 夏希 伊藤 紅都香 金澤 信心
	北海道余市紅志高等学校	近田 菜津美 房田 雄矢
	函館大妻高等学校	倉松 日向子 高橋 都和 西川 さくら



第8回北海道地区高校生介護技術コンテスト 課題

課 題	<p>桜井 直美さん(さくらい なおみさん78歳・女性)は、ユニット型介護老人福祉施設に入所しています。60歳の時に、網膜色素変性症を発症し、視野狭窄や夜盲の症状が徐々に進行し、73歳で全盲となりました。また、3年前から物忘れや日常生活の動作に介助が必要となり、病院でアルツハイマー型認知症と診断を受けています。外出する機会が減り、下肢の筋力低下も顕著に見られ、日常生活の見守りや介助が必要となり、現在の施設に入所となりました。桜井さんは「美味しくごはんが食べたい。」との希望を持っており、「隣の人の食べる音が気になって美味しくごはんが食べられない。」と職員に訴えています。(現在、食事の席の場所は決まっています。)桜井さんは、30分前に排泄を済ませて居るベッドにファーラー位の状態です。ラジオを聞いています。桜井さんに昼食のためにリビングに移動してもらい昼食準備を行ってください。</p> <p>本日の昼食メニューは中華丼と卵スープです。課題には載っていない出来事(ハプニング)が起こりますので、その対応もしてください。※居室とリビングにあるもののみを使用してください。また、リビングには必ず移動してください。</p>	
	健康状態・心身機能・身体状況	<ul style="list-style-type: none"> ・網膜色素変性症のため、5年前に全盲となる。 ・介護保険認定 要介護3 ・アルツハイマー型認知症 ・身体障害者手帳1級 ・認知症高齢者の日常生活自立度 II b ・障害高齢者の日常生活自立度 A2 ・聴覚は78歳の平均的な状態(補聴器使用なし)
	参加	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回施設で開かれるお茶会に参加し、他の利用者との会話を楽しんでいる。 ・ユニット内でのタオルたたみを日課としている。
	活 動	<p>移乗：起き上がりは介助バーを使用しているが、支える等の一部介助が必要。立ち上がりは介助すれば可能だが、ふらつく時もある。座位は安定している。</p> <p>移動：歩行は椅子付き歩行車を使用している。移動しているときに場所がわからなくなることがある。</p> <p>近づく物にぶつかることもあるため見守りが必要。</p> <p>食事：箸とスプーンを使い分け自力摂取。食べ残しや食べこぼしが見られる。</p> <p>更衣：声かけにより自力で行えるがミスが目立つ。一部介助が必要。</p> <p>排泄：尿意、便意を感じられる。</p>
	個人因子	<ul style="list-style-type: none"> ・夫とともに生花店を営んでいた。 ・趣味は旅行だった。 ・22歳で結婚し、2人の子ども(長男長女)に恵まれた。夫は7年前に他界している。 ・入所前は、長男家族と同居していた。 ・長男長女は結婚し、長男は札幌市、長女は道外に在住。孫は5人いる。 ・物や人にぶつかったり、食事をこぼして落ち込む場面がみられる。 ・性格は社交的で綺麗好きである。自分の思いを主張する場面が見られる。
環境因子	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット型介護老人福祉施設入所3年(個室) ・長男と孫が、月に1度面会に訪れ、その時に持ってくる生花を居室に飾っている。 	
使用できる物品	<p>【居室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベッド(柵付き)1 ・枕1 ・タオルケット1 ・介助バー1 ・床頭台1 ・靴1組 ・椅子付き歩行車※写真参照 ・ラジカセ1(床頭台の上に置かれている) ・収納ボックス1(上に海外の楽器、生花が置かれている) <p>【リビング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中テーブル1 ・大テーブル1(中テーブル2台分の大きさ) ・椅子4つ ・中テーブルの上に消毒剤1、布巾1、かごに入ったお手拭き4つ、ティッシュ箱1、エプロン1、トレーに入った自助具(A箸、Bパネ付き箸、Cスプーン、D柄の太い先割れスプーン E先が細めのシリコンスプーンが1組ずつ入っている。) ※写真参照 	
補 足	<ul style="list-style-type: none"> ・壁の位置は、ビニールテープで示している。 ・居室からホールまでの距離は、会場に合わせた距離になる。 ・椅子に座っている利用者「北(きた)さん」は、声を掛ければ自力で移動することができる。 ・食事の時の席は決まっている。 ・桜井さんの利き手は右利き。 	
<p>会場イメージ図</p>		

介助は2人1組で行い制限時間は7分、介助終了後にアピール発表の時間が2分設けられている。

<今回の本番で設定されたハプニング> (選手は介助中に初めて分かる)

①桜井さんが立位時にふらつく。②介助がスタートすると利用者「北さん」が桜井さんの席に移動する。

第10回全国高校生介護技術コンテストに参加して

第8回北海道地区高校生介護技術コンテスト最優秀賞受賞校

北海道剣淵高等学校 教諭 高倉 彩

1 大会概要

第33回全国産業教育フェア福井大会「第10回全国高校生介護技術コンテスト」が、10月29日（日）に福井県立奥越明成高等学校にて行われました。開催県枠出場校を含め、地区大会を勝ち抜いた12校が出場しました。

1カ月前に事前課題として、利用者様の基本情報（健康状態・心身機能・活動・参加・背景因子など）、物品、会場図が示されます。

その事前課題をもとに当日課題が提示され、課題検討を行います。課題検討室には生徒のみが入室でき、これまで学んできた知識や技術を活用し、利用者様にとって適切な介護を考えます。課題検討は25分間という短時間で、介護方法やその根拠、介護のポイントなどの最終確認をして競技に臨みます。

競技は、課題に対する介護技術（7分間）と介護方法、根拠、工夫点などの説明（2分間）からなります。

【事前課題】

栃木明子さん（78歳・女性）は2年前に脳梗塞を発症し、左上下肢不全麻痺の後遺症があります。夫が他界後は長男夫婦と共に生活をしていましたが、長男夫婦が仕事の関係で介護ができなくなったため、1カ月前より介護老人保健施設に入所となりました。入所当初は体調を崩すことも多かったが、最近では生活にも慣れ始め、体調を崩すことも少なくなりました。職員とのコミュニケーションをとるようになってからは、積極的にリハビリテーションにも取り組むようになり、自分のことは自分でやりたいと伝えるようになりました。また、家で生活したいという思いが入所当初より強くなっています。

【当日課題】

栃木明子さんは、ホールで長男夫婦に手紙を書き終え、肘掛け椅子から車いすに移乗して座っています。これからホールを出て居室までの移動の支援を行ってください。居室移動後はベッドへの移乗、カーディガンの着脱を行い、安定した端座位をとるまでの支援を行ってください。なお、カーディガンの収納場所は床頭台の上段引き出しとします。手紙については施設のポストに投函する支援を行ってください。ベッドの高さは一番下に下がっています。※利用者の返事は、うなずく、首を振る、指をさすのみです。

2 大会に参加して

本校は介護技術コンテストで勝ち抜くために、「動き出しは本人から」の著者：大堀具視さんの研修に参加しました。特に利用者様のエンパワメントを信じて待つことを重要視し、栃木さんが自らすすんで動き出せる声掛けを考えながら練習を行ってきました。

当日は第一発表者ということもあり、いい緊張感を持って競技に臨むことができました。当日課題に苦戦し時間内に課題を終了することができませんでしたが、北海道地区で一緒に戦った他校の思いを力にしながら自分らしさを出し切った競技となりました。

3 最後に

全国から福祉を学ぶ仲間が集まり、競技を通じて交流することができ、とても有意義な時間となりました。また、それと同時に全国のレベルの高さを痛感した大会となりました。私たちが見てきた貴重な経験を後輩へと受け継ぎ、さらに北海道地区全体のレベルアップにつながることを期待しています。

VI 各地区（ブロック）
家庭科研究会の
一年間の活動状況

空知管内

- ◇名称：空知高等学校家庭科教育研究会
- ◇運営母体：空知高等学校教育研究会
- ◇実施回数：1年に1回
- ◇会員学校数／管内学校数：23校／27校
- ◇会員教員数：52人（実習助手等含む）
- ◇次年度事務局校：北海道岩見沢農業高等学校

◆実施日 令和5年10月6日（参加者15名）

1 総会

- (1) 令和4年度 事業報告・会計決算報告
- (2) 令和5年度 事業計画案・予算案
- (3) 令和5年度 会員・規約の確認
- (4) 事務局ローテーションの確認
- (5) 令和6年度 研究会の内容について

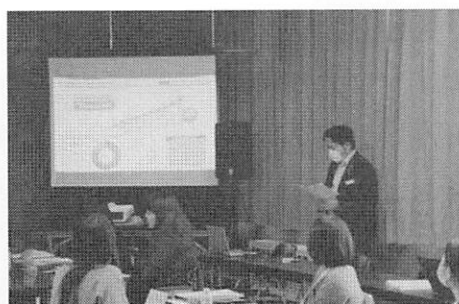
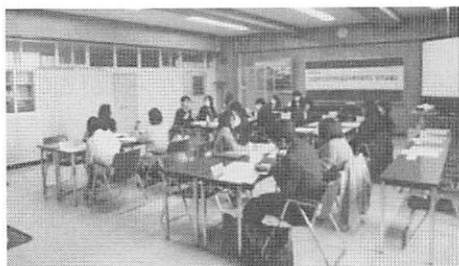
2 研究協議（各校の授業実践報告）

3 研修「金融経済教育 講義」

講師：SMBC コンシューマーファイナンス
株式会社 プラザ長 正木 健司 様
講師：株式会社三井住友銀行 札幌支店
お客様相談課 課長 岩倉 明子 様
会場：北海道砂川高等学校 会議室

4 研究協議

助言：北海道教育庁学校教育局
生徒指導・学校安全課生徒指導係
主査 山本 昌枝 様



石狩管内

- ◇名称：北海道高等学校教育研究会
石狩地区支部家庭部会
- ◇運営母体：高教研石狩地区支部家庭部会
- ◇実施回数：1年に3回
- ◇会員学校数／管内学校数：39校／70校
- ◇会員教員数／管内教員数：48人／109人
- ◇次年度事務局校：北海道北広島高等学校

◆実施日 令和5年6月13日（参加者38名）

第1回研究協議会

1 総会

2 実践発表

- (1) 『自分で考えて作りましょう』の被服製作
札幌平岸高等学校 柿澤 小百合 教諭
- (2) 「Googleサイトを活用した学習の振り返り
資料の活用」
札幌南高等学校 高橋 あき 教諭
- (3) 調べ学習を通じて地域に関心を持つ授業の
実践

札幌藻岩高等学校 畑中 翔平 教諭

3 研究協議

- (1) ICTを活用した授業実践について

◆実施日 令和5年10月3日（参加者29名）

第2回研究協議会

1 実演講義「プロから学ぶ四川料理」

講師 光塩学園調理製菓専門学校

中国料理専任講師 片岡 忠徳 氏

2 試食・情報交換



◆実施日 令和6年1月30日（参加者27名）

第3回研究協議会

1 講演「愛着スタイルと発達トラウマ」

講師 スクールカウンセラー公認心理師

土井 敦子 氏

2 研究協議

3 各ブロック情報交換・交流会

後志支部

- ◇名称：第42回後志管内高等学校家庭科研究会
総会・研究協議会
- ◇運営母体：後志管内高等学校家庭科研究会
- ◇実施回数：1年に1回
- ◇会員学校数／管内学校数：13校／18校
- ◇会員教員数／管内教員数：15名／19名
- ◇次年度事務局校：北海道小樽潮陵高等学校

◆実施日 令和5年11月22日（参加者9名）

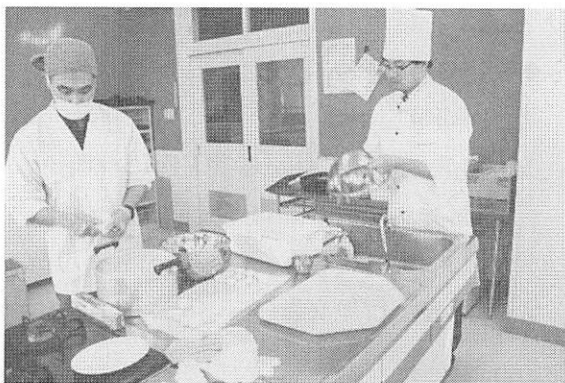
1 総会

- (1) 本年度役員の確認
- (2) 令和4年度事業報告
- (3) 令和5年度事業（案）
- (4) 令和6年度以降の当番校の確認
- (5) 令和6年度全道家庭科研究協議会運営研究員等の確認

2 研究会

(1) 交流

「マレーシア伝統菓子作り」体験実習
ニセコ町国際交流員
ホーリーシーン様



(2) 研究協議

調理実習使用教材や実践方法、成果や課題

胆振管内

- ◇名称：令和5年度胆振管内高等学校教育研究会
家庭部会
- ◇運営母体：胆振管内高等学校教育研究会
- ◇実施回数：1年に1回
- ◇会員学校数／管内学校数：24校／24校
- ◇会員教員数／管内教員数：31人／31人
(講師4名含む)
- ◇次年度事務局校：北海道苫小牧南高等学校

◆実施日 令和5年10月2日（参加者11名）

1 総会

- (1) 事業報告（令和4年）
- (2) 令和4年度決算報告・監査報告
- (3) 令和5年度事業計画（案）
- (4) 令和5年度予算（案）
- (5) 令和5年度役員
- (6) 連絡・その他

- ①R6年度以降の管内事務局校の担当について
- ②北海道高等学校家庭科研究協議会のR6年度提言者とR6年度以降の運営研究員について

2 各校交流会

- (1) 実習の実施状況と感染対策について
- (2) 観点別評価の方法や実践例について
- (3) 金融教育やキャリア教育の実施状況について

3 研修会

「縄文時代の人々の暮らしから現代に引き継ぐべき精神文化を学ぶ」
(フィールドワーク)

ボランティアガイド 大村 達也 様



日高管内

- ◇名称：令和5年度日高管内高等学校教育研究会
家庭研究会
- ◇運営母体：北海道平取高等学校
- ◇実施回数：1年に1回
- ◇会員学校数／管内学校数：6校／7校
- ◇会員教員数／管内教員数：6人／7人
- ◇次年度事務局校：北海道浦河高等学校

◆実施日 令和5年10月25日（水）

1 講演

「地域と教科の連携について」

(1) 講師

レクリエーション介護士
北海道平取高等学校学校運営協議会委員
熊谷厚子様

(2) 内容

- ・平取高校で行われている地域と教科の連携について、これまでの経緯や成果について。
- ・地域と学校のつながりを作るために必要なことについて。



(講演の様子)

2 研究協議

家庭科における評価規準設定について、各学校の規準の考え方や、授業の取り組みについて、持ち寄った資料をもとに情報交換を行った。今後の授業作りに役立てられるよう、積極的な質疑応答が行われた。

渡島・檜山地区

- ◇名称：令和5年度渡島・檜山地区高等学校
家庭科部会研究協議会
- ◇運営母体：函館大妻高等学校
- ◇実施回数：1回
- ◇会員学校数／管内学校数：19／28校
- ◇会員教員数／管内教員数：31／40人
- ◇次年度事務局校：北海道函館工業高等学校

◆実施日時：令和5年11月29日（水）

(参加者20名)

(1) 総会

- ・令和4年度事業報告・決算報告
- ・令和4年度会計監査報告
- ・令和5年度予算案審議
- ・当番校ローテーション確認

(2) 研究協議

〈 研修講座 〉

テーマ：「家庭科技術検定の
取り組みについて」

担 当：家庭科技術検定専門委員 玉森

〈 研究協議 〉

「研修講座内容について」

家庭科技術検定被服・食物調理・保育の4級の実技試験について体験評価を実施した。4級は比較的取り組みやすく授業で実施しやすいことなど講座で確認した。質疑応答では、保育検定について4種目すべて合格しなければ級が取得できないのかなどの質問がありその旨確認した。

上川・名寄地区

- ◇名称：上川管内高等学校教育研究会
教務部会家庭分科会
- ◇運営母体：上川管内高等学校教育研究会
- ◇実施回数：1年に2回
- ◇会員学校数／管内学校数：25校／30校
- ◇会員教員数／管内教員数：43人／43人
(実習助手含む)
- ◇次年度事務局校：北海道富良野高等学校

◆実施日 令和5年5月30日(参加者29名)

1 総会

- (1) 令和4年度事業報告・決算報告・監査報告
- (2) 令和5年度予算案審議
- (3) 令和7年度以降の運営研究員について
各高校への連絡手段について

2 研修・研究協議

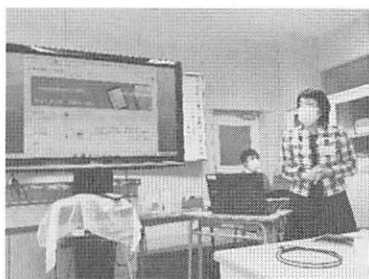
研修①「0からの classroom」

講師 上川町アカデミックプロデューサー 松井 丈夫 氏

研修②「classroomを使った資産運用 授業実践」

講師 北海道美瑛高等学校教諭 森本 鈴奈 氏

classroomの基礎的な活用方法を学んだ後、SMBC コンシューマーファイナンスの「資産形成・投資体験ゲーム」を行った。



◆実施日 令和5年8月7日(参加者22名)

研修①「真の共生社会を目指す家庭科教育のススメ」

講師 名寄市立大学保健福祉学部看護学科助手
松下 由惟 氏

研修②「研修①をテーマとして事例検討、および各校の情報交換」

教育現場にも性別によるアンコンシャスバイアスが根強く残っていることの気づきとなった。

留萌管内

- ◇名称：留萌管内高等学校教育研究会
- ◇運営母体：留萌管内高等学校教育研究会
- ◇実施回数：1年に1回
- ◇会員学校数／管内学校数：3校／7校
- ◇会員教員数／管内教員数：4人／4人
- ◇次年度事務局校：北海道留萌高等学校

◆実施日 令和5年11月27日(月)

(1) 総会

- ・令和4年度事業報告・会計・監査報告
- ・令和5年度事業計画案・予算案
- ・規約確認
- ・令和6年度以降の当番校の確認

(2) 研修

「いのちの講話」

講師 留萌市立病院 副看護師長・助産師
笹原 久美子 様

命の誕生、産前産後の母体へのケアについて1年次普通科の生徒に向けて講演を実施し、その様子を視察した。妊婦体験、保育人形抱っこ体験も含まれており、生徒も教員も学びの多い時間となった。



(3) 研究協議

- ① 高等学校家庭科教育における保育分野の指導について
- ② 各校の現状と課題

宗谷管内

◇名称：宗谷管内高等学校教育研究会家庭部会
研究協議会

◇運営母体：宗谷管内高等学校教育研究会

◇実施回数：隔年

◇次年度事務局校：北海道稚内高等学校

◆隔年での実施のため、来年度実施予定

オホーツク管内

◇名称：オホーツク管内高等学校家庭科教育研究
会

◇運営母体：オホーツク管内高等学校家庭科教育
研究会

◇実施回数：1年に1回

◇会員学校数／管内学校数：23校／23校

◇会員教員数／管内教員数：28人／28人

◇次年度事務局校：北海道紋別高等学校

◆実施日 令和5年10月6日（金）

（参加者20名）

- 1 総会
- 2 研究協議
成年年齢引き下げに伴う金融教育について
- 3 実技講習
 - (1)「アイスクリームフリーザーを使用したフロ
ーズンヨーグルトの製造体験」
 - (2)「全自動単発打錠機を使用したミンティア風
タブレットの製造体験」



十勝管内

- ◇名称：十勝管内高等学校教育研究会家庭分科会
- ◇運営母体：十勝管内高等学校教育研究会
- ◇実施回数：1年に2回
- ◇会員学校数／管内学校数：21校／22校
- ◇会員教員数／管内教員数：34人／34人
(講師、実習助手を含む)
- ◇次年度事務局校：北海道帯広農業高等学校

◆実施日 令和5年6月1日(参加者20名)

1 総会

- (1) 令和4年度事業、決算、会計監査報告
- (2) 令和5年度会員、役員
- (3) 令和5年度事業案及び予算案
- (4) 次年度以降の当番校
- (5) 北海道高等学校家庭科教育研究協議会

2 研究協議会

テーマ「生活課題を主体的に解決できる生徒の育成を目指した家庭科教育の実践」

◆実施日 令和5年11月6日(参加者21名)

1 講話1

「ひきこもり支援はじめました～幕別町の取り組みと高校の先生方に伝えたいこと」

講師 幕別町保健福祉部福祉課社会福祉係
コミュニティソーシャルワーカー

菊地 信二 氏

2 講話2

「幕別町の防災対策の現状と課題、求められる自助・共助の力」

講師 幕別町住民生活部防災環境課
防災マネージャー 高橋 祐二 氏
係長 長瀬 真人 氏

3 研究協議

テーマ「生活課題を主体的に解決できる生徒の育成を目指した家庭科教育の実践」

釧根地区

- ◇名称：釧路管内高等学校家庭科教育研究会
- ◇運営母体：釧路管内高等学校教育研究会
- ◇実施回数：1年に回
- ◇会員学校数／管内学校数：20校／20校
- ◇会員教員数：24人(実習助手等含む)
- ◇次年度事務局校：北海道霧多布高等学校

◆実施日 令和5年11月24日(金)

(参加者17名)

1 総会

- (1) 令和4年度事業報告について
- (2) 令和5年度事業計画(案)について
- (3) 釧路管内高等学校教育研究会家庭科部会当番校輪番(案)及び、北海道高等学校教育研究会家庭科部会協議会運営委員輪番(案)について

2 研究授業

(1) 教科名

子どもの発達と
保育「日常生活
に潜む危険」

(2) 授業者

北海道置戸高等学校長 長尾 勝恵 様



3 講演

これからの地域
における有益な
人材育成に向け
て



4 研究協議

- (1) 各参加教諭から長尾勝恵様へ質疑応答
- (2) 意見交換
 - ① 各校の評価観点、評価基準、定期考査の在り方について
 - ② 調理実習費の金額選択について
 - ③ 調理実習時における生徒の現状について

VII 特 別 寄 稿

大変お世話になりました。

北海道高等学校長会家庭部会 理事
北海道置戸高等学校 校長 長尾 勝 恵

私は「家庭科」と聞いただけで頭の中は疑問符だらけ、身体は後ずさり始めてしまうような思いを抱くような生徒であったのに、あろうことか家庭部会の役員をすることになるとは夢にも思いませんでした。

私が採用1校目の稚内高校で家庭科の先生が産休・育休に入ることになり、庶務部であった私に家庭クラブ（その当時の稚内高校では購買部の活動を行っていました）の補佐の仕事が回ってきました。その時には正直、「家庭クラブって何？」「家庭科と購買部と何がどう繋がっているの？」と疑問ばかりでありながらも半年間を何とか過ごしました。しかし、半年経っても「家庭クラブ」のことは最後までわかりませんでした。それが理解できたのは、次の赴任先の札幌西陵高校で、家庭クラブに力を注いでおられた先生にそれまで抱いていた疑問について質問を重ね、その疑問について具体的に教えていただいた時でした。

そのように何もわからない私が、赴任先の各学校で親しくさせていただいた家庭科の先生方は皆さん、大変個性的でエネルギッシュで、目の前の生徒のために「これでもか」と一所懸命に動かしていました。その姿を目にするたび、「かなわないな～」と思いつつ、「この先生方の足手まといにはならないように。可能であれば少しでも一緒に動けるようになりたいな～」と思いつけておりました。

当初、「家庭科」と聞くだけで（気持ちの上では）逃げ出したいのを押し留めるのが精一杯だった私が、家庭科の教師が教科指導はもとより部活動などにおいてもエネルギッシュに指導している姿に触発されて教諭最後の学校では家庭科系の部活動を手伝うまでになっていました。

その学校は地産地消をモットーとして、町内食事処のランチやコンビニエンスのパンのオリジナルレシピまで創作していました。その時、私も「手伝うと言ってしまったけど、本当に大丈夫なのだろうか」と思い返し、冷や汗をかいておりました。さらにレシピづくりの時は生徒1人ひとりが本当に、顧問の先生と対等に自分の意見をしっかりと持って出していることに、いつも感銘を受けていました。その姿を見て、家庭科の先生がここまで生徒1人ひとりのために頑張ってきていることが、生徒にも確実に伝わっているということを実感しました。

さらに家庭部会では、北海道月形高等学校前校長の宮崎円先生のいつも爽やかな笑顔から発せられる明確な言葉や北海道森高等学校長の佐紺摂子先生の落ち着いた物静かな姿勢から発せられる言葉にいつも感銘を受けておりました。また、家庭部会のために先生方を包み込みタッグを組んでくださっている校長先生、お1人おひとりがしっかりとサポートしていただいていたことに本当に頭が下がる思いをしておりました。

最後になりましたが、特に函館大妻高等学校長池田延己先生には、教諭時代から「福祉」について何もわからなかった私に、温かなご指導を賜りましたことにこの紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

このようなおぼつかない私をいつも支えてくださった各校長先生には、改めて心より深く感謝申し上げます。今後の家庭部会の充実発展を、これからも応援してまいりますので、皆様、くれぐれも心身の健康に留意されてご活躍ください。本当にお世話になり、ありがとうございます。

編集後記

「こですHOKKAIDO 2023」の発刊にあたり

世界的に大きな影響を受けた新型コロナウイルス感染症の感染法上の扱いが、5月8日から2類から5類へと移行され、授業や行事など、ようやく学校運営がほぼ正常な状態へと戻ってきました。しかし、コロナ禍前の環境へと完全に回復するためにはまだ時間がかかるものと感じます。反面、国のGIGAスクール構想が前倒しとなり、ICT機器の活用やインターネットを活用した通信技術の発展により、学校を取り巻く環境も大きく変わりました。OECDの国際学習到達度調査(PISA)の発表では、日本の読解力をはじめ、数学的リテラシー、科学的リテラシーの分野が順位を上げる結果となり、学習指導要領を踏まえた授業改善の推進とともに、学校のICTの整備が進み、生徒が機器に習熟するなど複合的に影響しているとの分析もありました。

また、令和5年は地球環境の変化が学校教育にも大きく影響を及ぼしました。世界気象機関(WMO)によると、今年の世界平均気温は産業革命前と比較して1.4度上昇し、世界的にも174年間の観測史上で最も暑い年となったようです。北海道でも連続真夏日や熱帯夜の日数、各地の最高気温がこれまでの記録を更新するなど、気候崩壊の始まりなどと言われました。道内の学校でも緊急の対応を迫られるなど、記録的な夏を過ごし、文字通り変化の激しい時代(1年)となりました。

さて、本校は「こですHOKKAIDO」の編集をこの2年間担当してまいりました。少子化の影響により高校の統廃合が続き、各学校が抱える課題や苦労とともに、各種教育機関の運営にも影響を及ぼしていることと思います。「こですHOKKAIDO」の編集を担当する高校も統廃合の影響により現在2校での持ち回りとなっています。1校が抱える業務としては大きなものがあり、運営上の課題と言えます。家庭部会の中にある様々な課題の意識の共有と、着実に課題解決を図っていく必要があると感じます。

終わりになりますが、「こですHOKKAIDO 2023」編集にあたり、大変お忙しい中、寄稿していただきました、校長先生方や多くの先生方、そしてご指導とご助言をいただきました関係の皆様にご心よりお礼を申し上げ、担当校を代表しての挨拶といたします。

こですHOKKAIDO 2023 編集担当校
北海道三笠高等学校 校長 藤田博史

北海道高等学校長協会家庭部会　こです HOKKAIDO 2023

発行日　　令和 6 年 3 月 31 日
発　行　　北海道高等学校長協会家庭部会事務局
 (北海道江別高等学校)
編　集　　北海道三笠高等学校
印刷所　　社会福祉法人　共友会　札幌福祉印刷
 札幌市西区西町北 15 丁目 5 番 7 号
 TEL　(011) 667-7771
 FAX　(011) 667-9750

こです HOKKAIDO とは

「こ」 Collected papers …… 集 録

「で」 Domestic Science …… 家庭科

「す」 Studies …… 研 究

家庭部会が研修して、それをまとめあげる
こーして仕上げることを、でかすと解釈し
北海道は、「こーですヨ」という意味です